



一般社団法人
徳島県建築士事務所協会

創立40周年記念誌

40
Tokushima Association of
Architectural Firms

建築士事務所憲章	2
祝辞	3

40周年記念事業

記念式典	10
記念祝賀会	12
特別講演会 「今求められる地域の活性化について」 東国原英夫氏	14

キャンペーン事業

講演会 「東京駅丸の内駅舎 保存・復原工事の記録」 鹿島建設株式会社 上浪鉄郎氏	20
「建築はおもしろい」研究発表[学生]	28
キャンペーンの風景	36

継続的事業

四国耐震診断評定委員会	40
木造住宅耐震化促進事業	42
建築物耐震相談所	44
苦情相談業務	45
住まいづくりサポートシステム	45
出前講座	46

沿革と概要

40年の歩み	54
事務所協会の軌跡	56
会長・副会長・役員の変遷	62
賛助会 会長・副会長・役員の変遷	65
正会員一覧	66
徳島県建築士事務所マップ	69
賛助会員一覧	70
40周年特別委員会組織表	73

理想のマイホーム実現物語	74
--------------	----

一般社団法人
徳島県建築士事務所協会
創立40周年記念誌





建築士事務所憲章

建築士事務所は、建築や環境が文化の形成に占める重要な意味を認識し、社会の健全な進歩と発展に寄与します。

- 一 誠意をもって設計と監理の業務を遂行し、建築主の期待に応えます。
- 一 健康で快適な生活環境の創造と、安全安心、持続可能で良質な資産の形成を図ります。
- 一 自己研鑽を怠らず、職業倫理を高め、法令遵守と公益の立場に立って最善を尽します。
- 一 設計意図の理解を施工者に求め、公正に工事を監理します。
- 一 互いに信頼を深め、連帯の精神をもって職務を全うします。

平成20年 5 月

一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

一般社団法人 徳島県建築士事務所協会

会長 小 西 誠 一



本年度、一般社団法人 徳島県建築士事務所協会が創立40周年を迎えられたのはご指導を頂いている行政機関の方々、関係諸団体の方々および先輩・会員の努力と熱意によるものであり感謝いたしております。

当協会は昭和49年に社団法人として設立しまして、昨年度より一般社団法人として認可を受け、より公益性の高い活動を担うこととなり

●建築主（消費者）の利益保護のため建築士事務所の開設者への指導・助言や勧告

●各種研修会の実施

●耐震相談など相談事業の実施と木造住宅耐震診断の実施

また、建築の設計は「自分で創造したものが形になる」という面白さを持っている事を一般の方々、若い世代に興味を持ってもらえるよう講演会、出前講座を行うなどの社会貢献活動も行っています。

創立20周年が平成6年、創立30周年が平成16年にそれぞれ記念式典が盛大に開催されたことは随分前の事のようにも、またつい先日のようにも感じられますが、その間の出来事を振り返るとつくづく時の流れは早いものだと感じられます。

周年の意味としては人生と同じくひとつの節目としてその都度原点を振り返り、見直しすべき点は見直し、良いものはより良くしていく事でないでしょうか。

日本は主に温暖な地帯にあり季節は春夏秋冬の四季といわれますが、春と夏の間に梅雨という雨季があり五季とも言われており、その季節毎の呼び名・行事等にも表れているようにそれを上手く取入れ暮らしています。

しかし近年火山噴火、台風、大雨等の災害で多数に被害を受け人々が悲しみ、涙を流している様子が新聞、ニュースで見受けられ、また阪神・淡路大震災も早や20年、東日本大震災から3月で早や4年が来ようとしており我々建築士事務所の業務において復旧・復興に建築の専門家として商売ではなく社会に少しでも貢献出来るよう日々研鑽し社会に信頼される建築士事務所の団体として努力を重ねていく所存ですので皆様方のご指導とご協力をお願いいたします。

そして次の50周年がそれぞれ会員事務所共に末永く隆盛して迎えられるようお祈りいたします。

内閣府特命担当大臣
衆議院議員

山 口 俊 一



この度、徳島県建築士事務所協会が創立40周年を迎えられ、本当におめでとうございます。徳島県建築士事務所協会は昭和49年に社団法人化され、昨年度より一般社団法人となり現在は正会員99社とその活動を協賛し助ける107社の賛助会員とで構成され、小西会長のリーダーシップの元に、一致結束して建築設計業界の発展に寄与されて参りました。公益性の高い事業を始めとし、今回の40周年記念事業や、相談事業、各種研修会や社会貢献を一生懸命行われているとお聞きしております。地域貢献でもなくてはならない存在として、その活動や奉仕の精神に敬意を表し、心から40年の長きにわたる活動に対し、ご慰労を申し上げたいと思います。また今後の協会の更なる発展に対してもご期待申し上げますと共に、今回の40周年記念誌の発刊に対してお慶び申し上げます。

皆様方の長年のご支援もありまして、9月の内閣改造人事におきまして安倍改造内閣に入閣を果たすことが出来ました。これも一重に24年もの長きにわたってご支援頂いた賜物であります。本当に感謝申し上げます。内閣府という特殊な省庁での仕事になりましたが、沖縄及び北方対策、科学技術政策、クールジャパン政策、宇宙政策、IT政策、再チャレンジ政策が担当となり、本当に多岐に渡る政策を統括する立場となりました。これらの政策は他省庁にまたがる政策であり、内閣府の司令塔機能が試される大変重要な政策であります。しっかりと他省庁との相互調整を行い、しっかりと指示を出し、統率をして政策を前に進めていく所存であります。

現在の社会情勢のなかでは地方創生が大変重要なファクターとして論じられております。特に地方での若者育成が重要で、仕事場の提供と後継者の育成は待ったなしです。皆様方が進められている「建築を目指す人材育成」はまさにその目的に合致し、どんどん進めて頂きたい社会貢献の一つであります。高校に出向いての建築士の業務や役割を紹介し、建築への意識向上を行っておられることも重要な事業であります。今後の徳島県の建築士業界への希望を持てる事業として本当に期待いたしております。

今後も「陽の当たらない所に陽を灯す政治」の政治信条を持ちながら皆様方と共に知恵を出しながら激動の時代を乗り越えていこうと思っております。徳島県建築士事務所協会の会員及び賛助会員の皆様方の益々のご活躍とご健康をお祈りいたしまして、今回の40周年記念誌へのお祝いの言葉とさせていただきます。

衆議院議員（自由民主党建築設計議員連盟）

後 藤 田 正 純



この度、徳島県建築士事務所協会が創立40周年を迎えられることに心よりお祝いを申し上げますとともに、長きにわたり、安心・安全の確保と良質で持続可能な生活環境の形成という社会的使命を果たされてこられたことに敬意を表します。この節目に当たり、この40年間の回顧と今後の展望について述べたいと思います。

徳島県建築設計事務所協会が創立した1974年（昭和49年）は、第一次オイルショックにより戦後の高度経済成長期から安定成長期へと移り変わる節目の年でした。この年、高度経済成長によってもたらされた都市と地方の過密・過疎の問題を受けて列島改造論を掲げた田中角栄内閣において、国土庁が設置され、国土利用計画法が制定されました。この年の徳島県の人口は、約79万人です。

現在の徳島県建築士事務所協会へと名称変更した1987年（昭和62年）は、いわゆるバブル景気の最中でした。この年の徳島県の人口は約84万人です。その後、1998年（平成10年）には、規制改革の中で、建築物の設計の自由度拡大や建築生産の高コスト構造の是正のため、性能規定化や確認・検査の民間開放が行われました。この頃から少子高齢化が明確になってきます。徳島県の人口は約83万人、うち5人に1人が65歳以上の高齢者です。

2006年（平成18年）には、構造計算偽造問題を受け、確認検査の厳格化が進められました。徳島県の人口は約81万人、うち4人に1人が65歳以上の高齢者です。そして、創立40周年となる2014年は、地方創生の年です。地方創生の大きなテーマの一つは、地方の人口減少の歯止めにあります。徳島県の人口は、約77万人となり、3.4人に1人は65歳以上の高齢者となっています。

建築のニーズは、経済社会状況の変化に伴い、この40年間で量から質へと変化していきました。これからは、個々の質（点）だけでなく、総体の質（面）すなわち、まち全体の価値を高める建築の時代です。若者や女性が魅力を感じ、高齢者や障害者が過ごしやすいまち。住まいをより良くし、歴史的文化的な遺産を生き返らせ、災害に強い地域をつくる。それにより、地域が活性化していきます。

徳島県建築士事務所協会及び会員の皆様方が今後益々ご活躍し、徳島県全体の発展へと貢献されることを祈念し、お祝いのあいさつに代えさせていただきます。

徳島県知事

飯 泉 嘉 門



このたび、一般社団法人徳島県建築士事務所協会が、栄えある創立40周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和49年に「社団法人徳島県建築設計事務所協会」として設立されて以来、県内建築士事務所の業務の適正運営と健全な発展、建築主の利益保護に向け、多大なご尽力をされてこられました。

この間、一貫して会員の皆様の資質向上や技術の研鑽に努められるとともに、将来の建築士を目指す人材の育成にも力を注がれ、本県の建築文化・技術の継承・発展に多大なご貢献をいただいております。

これもひとえに、小西会長をはじめ歴代役員、会員の皆様の弛まぬご熱意とご努力の賜であり、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

さて、徳島県におきましては、刻一刻と迫る「南海トラフ巨大地震」が最大の懸案事項であり、これを迎え撃つとの気概を持ち、「震災時の死者ゼロ」を目指した防災・減災対策をスピード感をもって展開しております。

昨年8月には、「南海トラフ巨大地震」に加え、「活断層地震」も見据えて、土地利用の規制と緩和を盛り込んで制定した「震災に強い社会づくり条例」に基づき、「特定活断層調査区域」を県民の皆様にお示しするとともに、今年3月には、津波避難対策をより確実・効果的に実施するため、津波防災地域づくり法に基づく「津波災害警戒区域（イエローゾーン）」を全国で初めて指定するなど、巨大地震を迎え撃つ本格的な体制整備を着実に進め、ハード・ソフト両面からの対策を加速させているところであります。

こうした中、貴協会におかれましては、会員の皆様の高い専門知識を活かし、平成9年度から「建築物の耐震相談所」を開設されるとともに、県において住宅の耐震化支援事業を開始した平成16年度以降、木造住宅耐震化の要となる「耐震診断員」・「耐震診断アドバイザー」の派遣・養成など、本県の施策推進に力強い支援を賜っているところであり、皆様方の取組みを誠に心強く感じております。

どうか皆様には、40年にわたり培ってこられた豊富な経験と実績を大いに活かされまして、今後とも、災害に強い建築物やまちづくりなど、「安全・安心とくしま」の実現をはじめ、県の施策推進に一層のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人徳島県建築士事務所協会が、このたびの佳節を契機に、更に大きく発展されますことと、会員の皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

会長 大 内 達 史



徳島県建築士事務所協会の創立40周年を心からお祝い申し上げます。40年の長きに渡り歴史を積み重ねて来られたのは、地域の活性化、行政との連携もさることながら会員の皆様の努力があったからこそと思います。

一言で40年と申しますが、幾多の困難な時、挫折する様な時も、その時、その時の歴代の会長、役員、会員の皆様方の力強い連携があったものと推測致します。歴史的に40年前と言うと、第1次オイルショック直後ですが、第2次オイルショックを乗り越えるとバブル経済に突入、日本中が好景気に沸き上がる時代で建築士事務所もこの好景気に酔いしれました。その後バブル崩壊、リーマンショック等時代の流れがありました。

連合会の構成員数は、40年前は3,200事務所、ピーク時の平成9年度には20,000事務所となりましたが、現在は15,000事務所です。会勢の拡大が本会の大きな課題であり、最終的には強制加入としたいと思っております。地震国である日本では、十勝沖地震、阪神淡路大震災、2度の新潟県中越地震、東日本大震災とそのたびに、設計、監理に対する安全、安心な建物の設計が要求されてまいりました。国民の生活に重大な影響を及ぼす我々設計者は、国民の安全を第一に考え、良質な建物を造り上げることこそが責務であります。平成21年には指定団体から法定団体となりましたが、益々協会が一致協力をしていかなければなりません。

本年6月20日、国会の実質最終日に議員立法にて建築士法の改正案が成立、6月27日に公布され、公布から1年以内の来年6月までに施行されます。これに伴い、書面による契約締結の義務化（300㎡超）、管理建築士の責務の明確化等による設計等の業の適正化、免許証の提示等による情報開示の充実、その他改正事項等について今まで曖昧であった事項などが明文化されました。我々の責務が一段と厳しくなりますが、それ以上に事務所の質の向上につながると信じております。徳島会の会員の皆様方には、これを契機により良い協会造りにご協力をいただきますと共に消費者保護に努めていただきます様お願い申し上げます。

建築士事務所協会及び会員が適正な評価と社会の信頼を得て活動していくため、徳島会におかれましては、建築士の資質・能力の向上や建築士事務所の業務の適正化のための取り組みに是非お力を貸していただきます様よろしくお願い申し上げます。

最後に徳島会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

The right half of the page features a repeating geometric pattern of interlocking circles in two shades of pink, creating a tessellated effect.

40周年記念事業

Memorial Events

40周年記念式典

2014年10月31日 ホテルクレメント徳島



小西誠一会長あいさつ



記念式典風景



被表彰者謝辞



松村史朗副会長



丹羽悟副会長



立花薫副会長



大内達史日事連会長



正会員・賛助会員
会長・副会長・役員



40周年記念祝賀会

2014年10月31日 ホテルクレメント徳島

飯泉嘉門徳島県知事祝辞



三木亨参議院議員祝辞



原秀樹徳島県市長会会長祝辞



大内達史日事連会長祝辞



祝賀会風景



祝賀会風景



協会創立40周年記念 特別講演会

今求められる地域の活性化について

元宮崎県知事・前衆議院議員
東 国 原 英 夫 氏

「為せば成る」の言葉を

胸に刻んだ少年時代

一般社団法人徳島県建築士事務所協会の40周年、本当におめでとうございます。建築関係は本当に重要な仕事でございまして、地域住民の生活を根底から支えるとともに、地域の発展に尽力されていることに敬意を表したいと思います。今日は私にとっても馴染みの深い徳島の皆さまに、地域活性化をテーマにお話させていただきます。

まず、よくいただく質問の中に「なぜ、お笑い界から政治家に転身したのか」というものがあります。一言で言えば、小さい頃からの夢だったんですね。私は昭和32年の生まれですが、当時の小学生に人気のあった仕事と言えば、パイロットや新幹線の運転手、学校の先生やお医者さんなどでした。今の小学4年生のアンケートを見ると、なりたい職業の4位に「正社員」が合まれているようです。

ちなみに、私が小学校一年の時になりたかったのは、フランス人。なかでもナポレオンに憧れていて「余の辞書に不可能の文字はない」という言葉が大好きでした。授業参観でも勇気を振り絞って「フランス人になりたいです」と発言したほどです。もちろん、教室はどん引き。その時、あまりの展開に目を白黒させている先生の口から思わず出た言葉が「頑張れば、なれます」でした。絶対になれるわけがないんですが、それが妙に胸に響いたんですね。その時から「頑張る」も私の大切な言葉の一つになりました。

もう一つ、私を支えている言葉があります。それが上杉鷹山の「為せば成る」です。江戸時代の大名で、米沢藩の

第9代藩主ですが、当時は徳川政権の末期で、どこの藩も財政的にひっ迫していました。なんとか財政を立て直しながら、政治や経済、教育などを充実させなければいけない。今の時代とまったく同じ状況なんです。莫大な借金を抱えながらも、経済を改革したのが上杉鷹山でした。安倍首相も所信表明演説で必ず「やればできる」という言葉を使いますが、恐らくこの教えから来ていると思います。今の学校教育では「頑張らなくてもいい」という視点が取り入れられていますが、頑張れる人が、頑張れなかった人を支える社会にしなければいけないと思います。

失敗や挫折の中にこそ

成長のチャンスがある

私の小学6年生の卒業文集には「政治家とお笑い芸人になりたい」と書いてあります。当時の先生に「正反対の仕事のようですが、その共通点は何ですか」と聞かれたとき、私は「両方とも人々を幸せにする仕事です」と答えました。あの頃の娯楽を支えたのがテレビでしたから、その中で自分が活躍することを夢見ていたんです。

僕の人生とは、小さい頃からの夢を実現するためのプロセスだと言っても過言ではありません。夢を追って東京の大学に進学し、卒業した頃には、日本列島は空前の漫オブームでした。ある時、小さな会場でビートたけしさんの漫オを見て「こんなにすごい人がいるのか」とカルチャーショックを受けたんです。たけしさんもツービートを結成して間もない新人の頃でしたから、お客さんはまばらで、ほとんど誰も笑っていない。でも、私は「この人は今後、お笑い界のトップになる」と直感しました。何と



か彼の弟子になりたいと、放送局の楽屋に忍び込んで直談判をしたんです。どう見ても不審者の私を見て、最初はかなり驚いていた様子でしたが、弟子入りへの熱意をぶつけるうちに「あんちゃん、運転はできるかい？」って。実は免許を持っているだけのペーパードライバーでしたが、このチャンスを逃てはならないと「できます！」と即答しました。生まれて最初に運転する車が、左ハンドルのボルシェ。しかも日本で一番難しいと言われる新宿の道路を走るハメになってしまいました。

たけしさんの一番弟子になれたことで、私の人生は大きく動き始めました。その後に入門してきた仲間と「たけし軍団」を結成し、テレビ出演などを重ねていくことになります。ただ、やはり夢を追ってれば、いろんな挫折もあります。でも経験から言えば、失敗や挫折の中にごそ学びの場があるのです。これは地方の活性化にも同じことが言えるのではないのでしょうか。向かい風に負けないよう、がむしゃらに進んでいくこと。目の前の大きな壁を乗り越える時にこそ、組織や個人の真価が問われるのではないかと思います。

謹慎中に書いた小説が 30万部のベストセラーに

私の最大の挫折は、たけしさんと、たけし軍団が起こした某週刊誌事務所への襲撃事件でした。ようやく、私たち「たけし軍団」も世間から認められてきた時期だったので、本当は行きたくありませんでしたが、なぜか私のアップが週刊誌の一面に掲載される事態になってしまいました。

もちろん、その日から仕事は全部無くなりました。「さあ、これからだ」という時に、六畳一間のアパートで自宅謹慎。本当に辛かったですが、時間だけはたっぷりあったので、以前から興味を持っていた小説を書いてみよう。せっくなので、完成した原稿を雑誌の編集局に持ち込んだところ「これは面白い、ぜひ出版しよう」という話になったんです。本のタイトルは「ビートたけし殺人事件」。出版後は、30万部を売り上げるベストセラーになりました。

その本はテレビ局の目にも留まり、二時間のテレビドラマとして放送されることになりました。しかも、ドラマ



の主演を私にしてほしいと言うんです。初めてのお芝居で、いきなりの主演。さすがに少し気が引けましたが、私の辞書に不可能はありませんから「はい、やります！」と即答しました。結局、私が原作、主演、脚本、演出のすべてを担当。これ以上ないほどの逆風の中、新たなチャレンジが転機となったのです。

その後、40歳の時に、ある不祥事を起こしたのを機に「残りの人生を社会貢献に費やそう」と決意しました。その時に思い浮かんだのが、小さい頃から思い描いていた政治家だったんです。一念発起して勉強をし直し、早稲田大学の政治経済学部に入りました。

あと一年で大学卒業という時、故郷の宮崎県で、知事の出直し選挙が行われることを知りました。この時が、私の人生で最大の悩みどころでしたね。「地方を元気にしたい」という思いから、卒業まで残りわずかだった大学を中退し、不退転の決意で知事選に出馬。無事に当選を果たすことができました。

自立した独立県を目指し 創意工夫を重ねてほしい

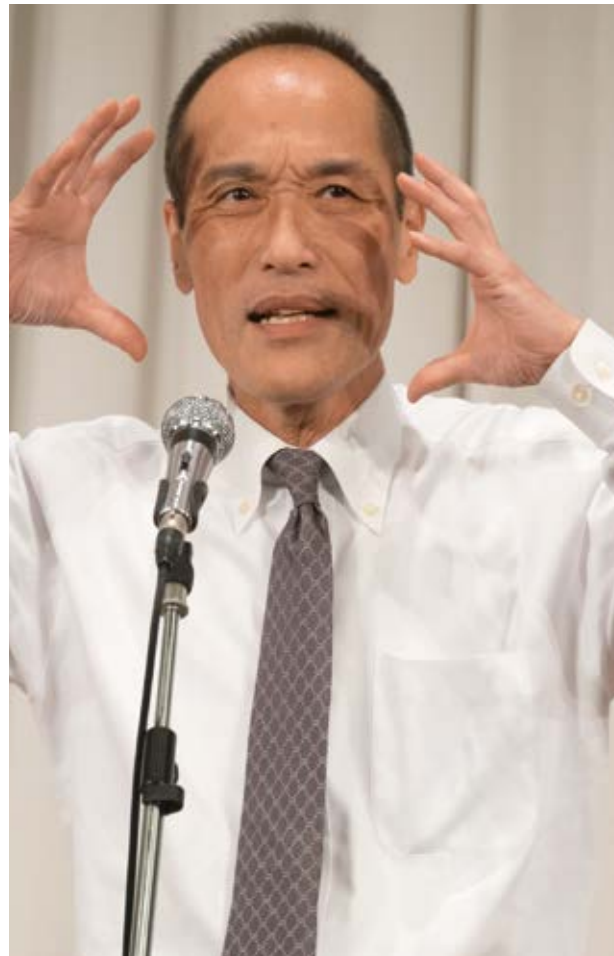
お笑い界の人間が行政の世界に入ったのですから、当初はとまどいの連続でした。入庁の挨拶の時も、最前列の部長や局長クラスの方々が、すごい形相で私をにらんでいるんです。ただ、その後ろに座っていた若手の職員は、希望に満ちた表情を浮かべていることが分かりました。地域の活性化に必要な要素としてよく言われるのが「若者、よそ者、ばか者」の三つです。言わば、私はよそ者。でも、地元の若者たちと力を合わせれば、ピンチをチャンスに変えることができると確信した瞬間でもありました。

行政改革や財政改革を始めるなど、やらなければならないことは山積み。さらに、当時はリーマン・ショックが起こった時期でもあり、景気の回復は最優先課題でした。まずは失敗を恐れず、いろんなアイデアを出しながらチャレンジをしよう。そこで思いついたのが、私の似

顔絵を宮崎のゆるキャラとして売り出す方法でした。知事の顔が商品になるなど前例のないことでしたから反対意見も出ましたが「これを規制緩和の第1号にしましょう」と強く推進したんです。品質管理さえしてもらえば、肖像権などの印税は一切いらないからと。そうしたら、農産品やお土産、生活用品に至るまで、何から何まで私の顔だらけになりました。前例がないことだからこそ、付加価値が生まれるのです。

知事として4年間多くの方々に支えてもらいながら改革を行ってきましたが、口蹄疫の流行により畜産農家が大打撃を受けたことを受け、一つの責任の取り方として辞任することを決意しました。地方の活性化に取り組んできた経験を国政で生かしたいと、翌年の2011年に東京都知事選に出馬。当選することはできませんでしたが、地方の未来づくりのために、本当に良い経験をさせていただいたと思っています。

今後の日本は、我々がかつて経験したことのない高齢社会を迎えます。これに、どうやって向かっていくかが、地方にとっても大きな課題になることは間違いありません。国でも、東京の一極集中を是正し、人やお金が地方へと流れるよう政策を打っている。これは、徳島の皆さんにとっても、大きなチャンスです。いかに創意工夫を活かして地元を元気にするかの分水嶺に来ているのです。どこかの県のやり方を真似るのではなく、海外の例なども参考にしながら、より広い視点で自主自立の独立県を目指していただければと思います。「為せば或る」の精神で、ともに頑張りましょう。



キャンペーン事業 Campaign Project

東京駅丸の内駅舎 保存・復原工事の記録

鹿島建設株式会社
上 浪 鉄 郎 氏

100年前の歴史的建造物と これからの100年

みなさんこんにちは。ただいまご紹介いただきました、鹿島建設のウエナミです。私、大阪出身ですが、徳島には初めてで、非常にわくわくして来ました。

少し早めに来て、いろんなところを見させていただいたんですけども、まさに今日発表されてましたように、川が多いなと。眉山というシンボリックな山があって、川がゆったりと流れていて、落ち着いた自然があって、いいなと思いました。ただ阿波踊りの時期じゃなかったのも、動の部分は見えなかったんですけど、静の部分を満喫させていただきました。県西部ではパラグライダーや、大歩危小歩危ではラフティングなど、いろんなスポーツもできるということで、日帰り出来るには勿体ないなと思った次第です。

私からは、東京駅、丸の内駅舎、保存復原工事を2008年から5年半かけてやってまいりましたが、実際に現場をやってきた人間としてお話ししたいと思います。東京駅というと、みなさんどういイメージを持たれているかわかりませんが、ここで復習をしたいと思います。

日本で初めて鉄道が走ったのは、明治5年ですね。初めて新橋と横浜の間に鉄道が引かれました。明治20年代には、新宿から立川に、明治27年には千葉の佐倉の方に、そして明治29年には土浦（今の常磐方面）と四方八方に鉄道が伸びていきました。

ところが真中が空いております。これは既に市街地として街ができてきたものですから、そこに後から鉄道を通すというのはなかなか難しいということで、ずっと空白になっていました。しかし南と北が分断されていると不便だ、ということで、高架橋で鉄道をつなぎましょうという計画ができて、それが明治30年過ぎから始まりました。東京駅は、真中に中央停車場という名前で建設された、これが始まりなんです。ということで、東京の市街地の中心として設けられている、という意味では日本の

中心の駅だと思います。

当時日本は、鎖国から明治維新が始まりまして近代、追いつけ追い越せで、ものすごくみんなが元気にやってきた時代です。その勢いもあって日露戦争に勝利をしまして、これからは近代列強国としての威厳を示さなければいけないということで、東京駅というのはそのシンボルとして建設されました。

時の総理、大隈重信は、この駅はあたかも光線を放射する太陽のようなものだ、あらゆるものの中心となってここから四方八方に光を放って欲しいと、大きな期待をもってこの駅の完成を祝ったといわれています。そして5年6年の歳月をかけて、鉄骨レンガ造の総3階建て、総工費287万円という予算で完成しました。これが1910年、今からちょうど100年前となります。

大正12年9月に関東大震災が起きましたけれども、この東京駅だけは耐えて、周りの建物が崩れていく中、救護施設として活躍したと言われています。しかし昭和20年5月、第二次世界大戦の空襲でドームの内部を焼失してしまいました。その後1年半ぐらいでばたばたと、安全性を考えて、3階部分を撤去して、両側のドームを八角寄棟の形で応急的に復元したと聞いています。我々の世代からいくと、この姿が東京駅というイメージが強かったんですけども、この一時的な修理で60年余り耐えてきたということになります。そういう意味で今回の保存復原工事、創建当初に戻すというのは悲願でもありました。

そんな中、平成15年に国指定の重要文化財に指定をされました。ということは勝手に壊したりすることはできません。建築基準法の適用除外ということも出てきます。

東京駅を設計したのは辰野金吾という、近代日本の建築の巨匠であります。1854年佐賀県の生まれ。英国に留学をされて、コンドルという教授の元で、いろいろなヨーロッパのデザインを学ばれました。帰国後、工部大学校（明治19年に東京大学に統合）の教授に就任され、全国各地に、赤レンガと白い花崗岩を組み合わせた、辰野式

と呼ばれる建物をたくさん残しています。

今回の保存復元工事でわれわれが一番苦労したのは、歴史的建造物を残したまま、地下を作ってその間に免震装置を入れるというものです。これを上の復元工事と並行して進めるということで、非常に大変な思いをしました。

もともとこの東京駅というのは駅舎の機能とステーションホテル、ギャラリー的な三つの要素から成り立ってありました。その用途は今回も継承されております。ステーションホテルは、東京駅の開業から一年遅れの1915年に開業しました。規模は、創建当初は70室だったのが150室と倍増されております。なんといっても東京の中にあるホテルですから、今でいう『鉄ちゃん』なんかが非常に愛用したということで、鉄道好きの文豪もたくさん滞在しております。有名どころでは川端康成さん、松本清張さんとか、内田百閒さんなども常宿されまして、小説を書かれたということです。清張の「点と線」というのは東京駅をモチーフにして作られた推理小説です。また定宿として本にも紹介されていて、「内田百閒の部屋」とか「川端康成の部屋」、文豪だけではなく例えば「石橋湛山内閣組閣の部屋」というのもあって、政治にも一役買っていたことがわかります。いろんな方面に影響力があつたというホテルでございます。

今回のお話はタイトルに「保存・復原」という言葉がついてます。保存というのは読んで字の通り、戦災で残った部分をできるだけ原形に近い状態で保つということです。ただ経年の劣化や傷んでいるところについては修理をして直します。復原というのは、戦災で失われた部分や応急復興で失われた3階の部分などを、新たに復元するということです。復原が復元ではなく原という字を使っていますが、これは間違っている訳ではなくて、原型に近い形で修理をすると、という意味です。先ほどお話しがありました「千秋閣」、あちらでは復元が使われていますが、一旦なくして新たに作り直す、という意味で使い分けをしています。



材料としては、屋根は銅板葺き、装飾銅板、それからドームには天然スレートと呼ばれる、薄い石版、といった形です。外壁は白い部分が花崗岩と擬石、赤い化粧レンガ、その化粧レンガを埋める覆輪目地（ふくわめじ）といった材料を使っております。南北の両ドームの内部は、辰野先生のヨーロピアンデザインですけれども、和風のテイストをモチーフとしたレリーフを配置されて、心は日本だよということを現されております。そういったレリーフを復原もしてきております。

＊一般的にレンガの目地は凹んでいますが、これをカマボコのように盛り上げる手法。

八角形のドームには、入隅部分にあたる方角の干支が飾っております。子・卯・午・酉はありません。十二支のうち八つの干支が飾られているということです。和風テイストということでは、大河ドラマにも出ていますが、太閤秀吉の兜をモチーフにした要石（キーストーン）も使われています。

もうひとつ、強靱ということで、これからの百年を大地震にも耐えられるように、歴史を残したままで地下を掘って躯体を作っています。躯体との間に免震装置を入れて、駅舎全体を免震化するという工事をやっております。

南北両ドーム、そして中央部分をつなぐ動線となります。お客様が通られるので、365日止めることはできません。総武線を結ぶ地下への階段や、東京駅のコンコース、中央地下通路、こういったところも導線として確保しないといけません。それから中央線がすぐそばに通っておりますから、いわゆる鉄道近接工事という扱いになります。



駅舎の一部が線路に食い込んできています。免震化すると建物の揺れが大きくなるということで、北ドームの壁はセットバックさせてます。セットバックと言ってもただ後ろに下げただけではなく、最初に中にある種の躯体を作っておいてから、外壁を撤去して化粧レンガを貼るという工事です。なにぶん駅の中ですから、普段は電車が通ってますので、当然昼間はできません。夜終電が行った後、バタバタと用事をして、足場を組んで、ちょこちょこっと作業をして、すぐ解体、点検をして始発電車が入ってくる、というのをコツコツと繰り返してきました。

保存復原は調査を入れると3年ぐらいで終わってますが、免震化の方は長いです。仮受けのための杭打ちから始まって、最後に免震化するまで4年かかっています。そのぐらい駅舎を残したまま地下を作るというのは大変なことだということです。

＊仮受けとは、駅舎の荷重を、レンガ壁直下に設置する縦梁及びつなぎ梁等で受け、仮受け支柱及び建物外周の山留め杭を通して支持すること。（鹿島HP）

職人たちの保存と復原

ここからは保存・復原と免震化と、個別に話させていただきます。復原はまず外壁の調査から始めました。残しているところ、危ないから修理しないといけないところ、そういったものを逐一材料別に仕上げていきます。例えば擬石、化粧レンガ、花崗岩、既存構造用レンガと、それぞれごとに打診の調査をしました。浮いているところ、壊れているところとかを図面化して、それをどう直すかを設計者から。また専門委員会の先生方で針を決めていただいて、予算から、どこをどういう修理していくかということをして走りながら決めていったということです。

思ったよりかなり損傷がひどかったのが、線路（八重

洲）側で、応急復興の時にも、ひどいものですから、レンガを隠してしまって、全部モルタルを塗って赤いペンキを塗ってありました。覚えていらっしゃる方もいらっしゃると思いますが。モルタルをはがしてみると、予想通りかなり損傷が激しかったんです。窓回りなども、この状態でサッシをつけたらじゃじゃ漏れだね、ホテルとして機能しないね、ということで、二次躯体を一回作りましょうというようなことを、我々から提案をしながらお客様の予算と共に決めていきました。

方針が決まったらいざ工事、となるわけです。線路側と駅舎側で損傷の違いがあります。線路側の方がひどくて、化粧煉瓦がほとんど残ってなくて、見えているのは全部構造煉瓦です。駅舎側は化粧煉瓦や花崗岩が残ってたりします。

二階から下は保存です。今あるものを直します。三階部分は復原で、下地は現代工法のSRC造で作って、化粧煉瓦を貼りましょうということです。始める前に、一部鉄骨の張りぼてでモックアップ（模型）を作り、最終的にはこんな形になります、というのを専門委員会に決めていただいています。

中東飾り石と呼ばれている花崗岩は、応急復興の時は一旦2階に下げられていました。それを創建当時の、3階の中途に持っていくということで、今回これを外して、躯体を作ってから当時の形に戻します。エンタシスも応急復興ではワンフロア分のRがついていたのを、ツーフロアでちゃんと見られる形に戻す、ということもやっています。＊エンタシス：円柱の下から上にかけて徐々に細くした、あるいは中程から上に細くした形状で、柱を下から見上げると真っ直ぐに見える錯覚を利用したもので、大きな建物などの柱に使われる工法。

左官ですからいろいろと細かい技ができます。モルタルの中に花崗岩の種石を入れて、表面のセメント部を洗い流して石の肌合いを出し、石に似せて作る擬石というもの、初めて聞かれる方もいらっしゃると思いますが。あるいは型板を使いながら、カルトューシュと呼ばれる、釣り鐘のような形のものも作りました。

＊カルトューシュ：工芸や建築用語。古代エジプトの文字（記号）からきている。端っこを巻込んだような装飾で、建築では紋章や文字などを記す装飾額に使われる。

化粧煉瓦というのは、今の焼成技術では温度管理がきちっとしていますから、均一のもので出来ます。創建当時は温度管理にムラがあり、色ムラがありました。それがいい風合いを出していたんですが、今回違和感がないように、事前に面ごとに色差計で色合いを測って、個々に

調和するような色使いを考えて、三種類の焼いたものをブレンドしています。

覆輪目地は、今回伝承された中にない技術で、街のタイル屋さん、タイルの目地を引く目地屋の方たちに協力してもらって挑戦してもらいました。平面で引くのとな何が難しいかというと、縦と横の交点、臺股と言っていますが、これを美しく見せられるかどうかということに苦労しました。

今の現代の建築というのは、できるだけ均一にものを作たくさんこなして、生産性を上げるという方向ですけど、今回は全く真逆で、いちいち手作業で横を引いて縦を引く、縦を引いたときにタイルの型がうまくいかなかったらまたやり直すというような、地道な作業をしました。

JR東日本さんは、復原に関してすごい想いを持っていたので、現場管理の方からなかなかOKが出ないんです。30人ぐらいの目地屋さんに来てもらっていたんですが、一人抜け、二人抜け、で結局最後7人ぐらいが残って仕上げてくれました。ある夕方、私が現場を回っていると、暗い中でぼーっと外壁を見つめている目地職人がいまして、「どうしたの?」と聞いたら、「昔の職人が俺に、ここまでお前が来れるのかって語りかけてくるんですよ」というんですね。先輩の残した技術に対して、今回これから自分が手を入れることで、100年先の職人さんがそれを観て、「なんだ平成の手技って大した技量がなかったんだな」と思われたくない、葛藤して思い悩んで、いつのまにか皮膚炎になっていたというようなエピソードがあります。そのくらい熱い思いを持っていないとできなかった部分であります。

屋根は、銅板の加工で、今でもお寺や神社の屋根を葺いている銅板屋さんたちに来てもらいました。南北335メートルありますので、順番にやっていけばよかったんですが、工期的にかなり厳しいということで、南、北、中央、と同時に入ってもらうためにはたくさん必要で、東京にいる銅板屋さんでは足りなくて、全国各地に応援を要請しました。私も長野まで行って、棟梁に頭を下げて、「東京駅が大変なんで職人さんを貸して下さい」とお願いしました。「しょうがねえなあ、檀家に謝りに行ってくるわ」、と職人さんをよこしていただいたこともありました。

装飾銅板というのは、厚さは0.2ミリとか0.4ミリなので、下地がいるんですね。下地は木（もく）なんです。重要文化財で建築基準法の適用を免れているところから、木をふんだんに使って下地を作れたんです。

球形の部分は漆喰を塗っています。漆喰で下地を作った上に銅板を葺くという形です。一般の屋根の部分をは



木製の下地を使っています。垂木は桧、野地板には杉を使っています。装飾銅板で回りを固めて、その間に天然杉等を貼っていくというやり方です。

応急復興の時は鱗貼りという、アールが下向きに葺いていたのですが、それをはがして、天地を逆にして、釘穴の位置を開け直して貼っていくと一文字葺きになります。そのように使えるものはそのまま使いました。

スレートも、日本では宮城県雄勝地方だけでしかとれないということもありまして、スレート工が10人ぐらいしかいないんです。それを全国から呼び寄せたので、全国の屋根工事が一時ストップしたという話もあります。

天然ものですから目があって、途中で割れたら困るので事前に検査をします。コンコンと叩いて音を聞いて、割れそうなものははねるんですね。当然産地から出すときに検査をして、場内に入った時ももう一回検査をし、屋根に上がる前にももう一回検査をするんです。頑固な棟梁のおやじさんがいて、屋根に上がってきたものを、自分でもう一回叩いてはねるんですね。

実は宮城の雄勝は、東日本大震災で津波にやられまして、ちょうどその時に預けてあったんものが流されて、自分たちが被災者で明日暮らすところもないのに、東京駅のスレートが流されては大変だということで、必死に集めて泥を取って洗って、東京駅に送り返してくれたというスレートだったんです。それをこのおやじさんは、ぼーんと、「使えねえ」ってはねるんですよ。宮城から来たスレート屋さんと大喧嘩になりまして、「なぜ三回も検査をしているのにはねるんだ」と。おやじは「このスレートは100年持たない、俺にはわかる。だからはねる」、そういうつばぜり合いがありまして、本当に強い思いを持った人たちのバトルがあったんです。そういった思いの詰まったスレートを、一番良い中央の駅前広場側に貼ってあります。

レリーフは、応急復興では、戦闘機になりそこなったジュラルミンが使われていたんですが、創建当初のかなり傷んだところが、それで隠されていたんです。今回の工事で剥いて見たらレリーフが出てきたんです。こちらも一面モックアップを作りました。色も当時の写真は白黒しかないのに、どうやって黄色とわかったのか未だによくわからないのですが、いい色に仕上がっています。

3D測量によってわかったのは、当時のドームは正八角形と言いながら正八角形ではなく、ちょっといびつになっているんです。今回はそこまで合わせる技量はないので、正八角形にしますということで、引っ込んだ面についてはモルタルを付き送りをして下地を出してきています。

昔はレリーフを釘と番線で止めていたんですが、JRさんは安全に対しては強い思いがありますので、今回は鉄骨の下地を入れて、ボルトでメカニカルに留めて落下しないようにして、その周りを漆喰で固めてあります。状態のいいレリーフは、強化処理をして元の位置に戻しました。その証拠に色を塗っていません。ペンキを塗り忘れているのではなくて、これが本当にオリジナルのものだとわかるようにしてあります。東京駅から見た南ドームの南東の壁面ですが、一面だけ保存状態が良かった部分はそういった細工をしてあります。天井面のレリーフは、安全面の配慮から、GRG（グラファイバー・レインフォース・ジブシム、中空構造の石膏）という、ガラス繊維を入れた補強の石膏で作っています。

4年間に渡る免震化

次に、強靱ということで一番苦労した部分、駅舎を残したまま地下を構築して免震化するというプロセスに入ります。

大まかに言っておきますと、駅舎から連結するのに必要な杭を建屋の中で打ちます。そして一階回りの基礎梁を、縦梁というコンクリートの梁で補強します。家具でいうと台輪ってありますね、足元の台輪をしっかり作って、打った杭と接合してジャッキで荷重を移行します。それを仮受けと呼びます。駅舎が仮受け状態になったところで掘削、地下躯体の構築、今まで支えていた松杭とかを撤去しながら地下の躯体を作ります。地下の躯体ができたら、免震層の地下の躯体と、一・二階の間に免震装置を入れて荷重を戻してやる、受け替えと言っています。こういうプロセスで免震化をやっています。

〔ビデオの上映〕

構造編は、かなりややこしい手順なので、一回聞いただけではなかなかかわからないと思うんですが、簡単におさらいしていきます。

本設杭として使うRCの杭の中に仮受けの支柱、これ鉄骨ですが、それも含めて杭を打ちます。一階回りは補強の梁、駅舎全体を均一に杭に力を伝達するために、補強梁に巻いています。その煉瓦留めの真下に作る梁を縦梁と言っています。

駅舎が上にあるものですから、土を掘って出すにも横に一回引かないといけないんですね、そのための出し口がないと工事がやりにくいということで、駅前広場を有効

に使いました。杭工事は、既存の杭ですけども、昔の杭は松でできていました。直径7寸長さが3間から4間、5メートルから7メートル位のもんです。これが約11000本、建屋の中に入っていました。それを鉄筋コンクリートの基礎の上に花崗岩の石があって、鉄骨を受けて煉瓦で巻いている、という構図になっています。

創建当初の基礎工事中の写真を見ますと、コンクリートの基礎が壁の真下に配置されています。今回の仮受け用の杭はこの隙間を狙って打たなければいけないということになり、どれだけ大変かだいたい想像がつくと思いますが。掘削の時に支柱から出てきた松杭などの一部を、隣のビルなんかに展示していますので、また東京へ行ったときに見てください。

我々からすると松杭は邪魔者でしかないので、掘削のために切っては出し切っては出しとやっていました。杭工事は建屋の中で打つ工事があるんです。杭打ち機を建屋の中に据えて打ちます。壁のないところ、基礎がないところを狙って打つんですが、当時の施工精度から言って基礎が出っ張っていたりして、かなり当たったりしました。

壁の中は、廊下の中を尺取虫のように進んで行っては杭を打っていくということですね。重要文化財なので、壁に開口を開ける訳にはいかない、既存の開口のまま何とか杭打ち機を入れなきゃいけないんです。建屋の中は約430本ありましたけども、その内161本が何らかの支柱の障害に当たりました。

支障率というのが37.4パーセント、打率でいうと3割7部4里、強烈なスラッガーですね。当たってしまったらどうするか？ 建屋の中で使う杭打ち機というのはそんなに力がないんです。松杭といえども当たったら止まってしまいます。で、どうするかというと、一旦杭打ち機をどけて手で掘るしかないですね。杭の頭を現して、切って釣り上

げていくと、7メートル位の杭ですから、最後まで掘り切って、出し終わってからもう一回土を埋めるんです。ある程度土を埋めて、また杭打ち機を持ってくるというのを三割七分四里やってきたという訳です。それで杭打ちだけで三年もかかったという話です。

一階の補強躯体は、これも構築の手順がややこしいんですが、何せ上が煉瓦造ですからいっぺんに大きな開口を開けると崩れてしまいます。まず1メートル角に開けて仮の支柱で支えて、支えたらその間を抜くということで、一回に6メートルの空間を確保。既存の鉄骨造で2メートルで1台入ったので、6メートルの開口に対して梁の配筋をして、固くコンクリート打つと、だいたい5メートルのユニットができます。そういういうのをつなげていって腕を出して、仮受支柱に届くように支える、というメカニズムでやっています。

隣り合ったところは開けられないので、1カ所終わったら次、と互い違いになるように進めていきました。これもだいたい二年半くらいかかりました。当然ラップをしてやっていくので、トータルで四年で免震化までいったんです。

仮受けの間に地震が起きた時にずれないように、仮受けはジャッキを使って、仮受け支柱と一階の躯体を突っ張ることで、加重がその杭に流れるという仕組みです。水平力に対して抵抗できる部材をあらかじめ上プレートに溶接してあるということです。調整用のレベル調整の架台を付けて上プレートの間に下クサビというのを溶接固定します。

同時にジャッキ受け用のブラケットを、これは仮ですが、ボルトで固定して油圧ジャッキで突っ張ると、それだけで加重が支柱に流れるという訳です。突っ張った状態で上くさびという、これも原始的な方法ですが、叩いて入れます。ジャッキを外しても下がらないような状態にな



り、これで仮受けが完了ということになります。だいたい10回、15台、15本の仮受け支柱を割り付けて、一か所に4本の油圧ジャッキをセットしますから、60台同時に制御しながらやったという訳です。これも原始的な方法ですけど、壁にマーカーを張り付けておいて、レベルで油圧をかけていくプロセスをずっとモニターしながら、二千分の一を超えないようにゆっくりとジャッキをアップしていきました。仮受けが終わったらようやく掘削に入ります。

この仮受け状態の時に東日本大震災が起きまして、当時東京は震度5強ということで丸の内だと周りの高速道もぐらぐら揺れて、中にはゴンドラで清掃している人もいまして、ブーメランのように回ったんです。もうだめだーっという位に揺れていたのを記憶しています。その地震でも本体の煉瓦には影響なかったということで、この仮受けの計画自体はうまくいきました。

掘削は既存の煉瓦基礎を撤去して行うんですけど、先に言いましたように開口がないと土は出せません。駅の南の方はだんだんと北に行くに従って迫ってきています。一部はドームの中に食い込んで来ています。駅前広場は南側にあるんですけど、北に行くに従ってなくなる。しかも北の工区には、総武線にアクセスする総合階段とか中央地下通路とかあり、お客さんが通ってますから、開口を開ける訳にはいけないんです。ということで南側は余裕で開口が取れましたけども、北に関しては一か所しか取れなくてやりにくい状態になってしまいました。しかも北には昔の駅舎の仮受けをした時の基礎とか階段の躯体とかがあって、杭打ちするにもいちいちこれらに当たるため、場所を変えなければいけないのでかなり苦労しました。杭を打っては縦梁を作りながら、こつこつと仮受けをやりました。

地下躯体ができれば免震化をするんですが、総武線の上での免震化をご紹介します。昭和43年に、元施工の大林組が一旦駅舎を仮受けしています。だいたい同じような方法なんですが、一階回りはコンクリートの梁を作って横梁を出して仮受けをしています。違うのは、これで終わりなんですね。このまま使うということで、コンクリートで駅舎と地下管体をがちがちに固定しているという状況になっていました。

ここを免震化するには、いったんここで縁を切らないといけないんですね。それが大変だったんです。まず充

填コンクリートを撤去します。梁の下は残しておかないと下がってしまうので、梁以外のところの充填コンクリートを取って、免震装置を入れるところだけ、連続コアで開けて、免震装置を滑り込ませます。その部分を免震化をして、受け変えをして、回りの梁の下の充填コンクリートを取って縁を切るという手順です。

狭い中に入って行ってやらなければいけないので、這いつくばって免震のプレートの固定などをやっています。また90度水平にドリルを回すと、上向きに回転が伝達されるものを開発してアンカーボルトを打ちました。駅舎ということで総武線の地下一階のレベルと東京駅の一階のレベルは決まっていたので、元々免震層の高さはないんですが、そういったところまで免震装置を352台入れていったんです。

切り替えの時には、仮受けの時には油圧ジャッキで押しましたが、今回は本接でするので免震装置と一階の躯体との間に、フラットジャッキクラウドを押したらぐっと開くようなジャッキを挿入してクラウドを注入して置き換えを行ってきました。以上、強靱という部分です。

安全のための、40数項目のルール

最後に、安全というコーナーに入ります。

東京駅は365日、お客さんを無事に通さなければいけない、という中での工事の大変さをご紹介します。

パンフレットには乗降客40万人と書いていますけど、それはJR東日本さんで入場された方、切符を買って入場された方の数です。実はそれ以外にJR東海さんも入っていますので、乗り換えのお客さんを入れると一日70～80万人は通行しているのではないかと思います。

駅機能、商空間の導線を確保しながら輸客通行、両側のドームと通路部分の工事、それから近接部分をやります。入っていく作業員さんは、中に入っていくときに今日自分がどこで作業するのか、危険エリアマップで作業指示書にマーキングしてもらいます。この赤い範囲に入っているとお客さんが近いんだとか、気をつけなきゃなと気づいてもらうようにしています。だいたい今終電は1時位まで走っています。初電は4時位から動きます。という

ことは3時間しかないんです。3時間の間で工事をやらなければいけない。

昼間はお客さんがたくさん通っています。床を覆工板という鉄板の上にゴムマットを敷いて養生しています。それが夜になるとバタバタバタッと養生をめくって、覆工板をバタバタバタッと開けて、鉄骨を入れたり、土を盛ったものを出したり、駅舎の中にトラックまで入れたり、この3時間の中でやってきました。3時間といっても、段取りと作業復興して点検してお客さんが通れるようにするのに、だいたい一時間ちょっとかかりますので、実際作業に使える時間というのは一時間半位でした。それをずっと5年半やってきたということです。北ドームの方もそうです。空洞があるので大きな機械を入れてやりましたけど、基本は同じことです。昼間はお客さんがいっぱい通っているので、工事で出る粉塵とか水とかがかかからないようにしないといけない。我々は公衆災害防止のための鉄則として、二重防護という考え方をやりました。一重では止められないと考えています。

上下関係でいうと三階の床に簡易防水はしてあるんですけど、その下にまたシートを貼って、テントを貼っています。水平の区画にしても、お客さんに面するところの裏にもう一回シートを貼っているという二重防護です。粉塵が風に乗ってお客さんのところにいかないようにもいろんな工夫をしました。まず換気装置。大型のファンでお客さんに埃が行かないようにしました。それから、ミストファン。最近よく行楽地などで使っていますが、水蒸気をファンで送って粉塵を吸着させて床に落とす、という埃の抑制。

縦梁を作るときに煉瓦を解体しますけど、煉瓦の粉塵はすごく細かいのでちょっと触っただけでも風に乗って飛んで行ってしまうんです。ですからバキュームカーで吸い取るというようなこともやりました。

旅客動線部で斫る（はつる）ことになるとうしようもありません。昼間斫るとみどりの窓口から、お客さんとの会話ができないと。夜やると、下に運転手さんや車掌さんの仮眠室があるんですが、眠れないからやめてくれと。いつやるのか。みどりの窓口が閉まる夜の7時から、仮眠が始まる11時までの4時間。それではとても追いつかないと、いろいろ工夫しました。例えば、防音シートを何重にも貼って、この中に斫り屋さんに入ってもらって、汗だく

でやってもらいました。また鉄筋があまり入ってない基礎などは、油圧ジャッキをコアであてた中に差し込んで油圧をかけると、かなり騒音が減るということで、トータルで騒音・振動を減らしていきました。

鉄道近接工事は、図面とかメモ一枚でも線路に飛ばすと列車が止まってしまいます。そこで全体をネットで覆って、資材の出し入れの時だけ開けるようにしました。

一番気をつけたのが火災です。お客さんがすぐそばを通っている中で火災を起こしますとパニックになりますから、通常の現場以上に管理しました。工事にかかる前、途中、終わった後の3回、写真を撮って最後の報告の時に確認をするようにしました。

お客さんの目線で、シートがはがれてないかとか、床のゴムがめくれてないかとか、一日7回、社員が交代で巡回しました。応急処置が必要なときには、報告を引き継いでいって、夜間に処置をしました。また作業員などが、お客さんに迷惑にならないように、今自分がどこにいるのかとか、状況がわかるように、張り紙をしったりして注意を喚起しました。

朝8時には作業員の朝礼をやるんですが、口頭だけでなく、プロジェクターを使って目で見てわかるように伝達をしました。そこまでやってもヒヤリハットというか、ニアミスはあり、そのたびにJRさんから、原因と対策を出せ、ってお叱りを受けました。実はその対策が現場の新しいルールとなって積み重なってきます。最終的には40数項目のルールとなりました。

5年半、ストレスのかかる中でやってこられましたのは、我々はもちろん、何よりも強い意志を持って工事をやり遂げると先導してくれたJRさん、全ての方の力です。作業員さんや社員は、家族の応援というのもストレス解消やモチベーションアップになるということで、年に一度、家族の現場見学会というのも設けていました。子どもたちにも重機の運転席に乗ったりして、お父さんの仕事を理解してもらって、応援団になってもらって、やる気を出してもらいました。

長時間になりましたが、これで終わります。ご静聴、ありがとうございました。

「建築は面白い」研究発表

千秋閣の3Dによる復元

徳島文理大学 人間生活学部
建築デザイン学科 [川村研究室]
藤山 愛 / 吉岡 茜

私たちは平成26年6月から、現在の徳島中央公園内にあった「千秋閣」の3D（立体映像）による復元を行っています。ちなみに、「千秋閣」の北側にあった「徳島県立光慶図書館」（現在の徳島県立図書館の前身）の復元も、一昨年に建築デザイン学科の四年生が復元しています。

初めに、「千秋閣」の歴史について簡単に触れていききたいと思います。「千秋閣」は明治41年（1908年）、皇太子の宿泊施設として、当時同じ位置にあった「適翠閣」跡地に建てられたものです。現在の徳島城博物館の少し東で、二の丸庭園を囲む形です。なお、「適翠閣」は「武徳殿」として改装され、現在のバラ園の位置に移築されました。明治42年（1909年）、初めての行幸で皇太子（後の大正天皇）が三泊されました。大正11年（1922年）には、皇太子（後の昭和天皇）が一泊されました。そして、昭和20年（1945年）、徳島大空襲により焼失しました。



[左] 藤山さん / [右] 吉岡さん

「千秋閣」の名前も知らなかった私たちを含め、戦後世代の県民に、貴重な文化遺産を広く知ってもらうことに意義があると考え、「千秋閣」の3D復元に取り組んでいます。また徳島県立城東高校や裁判所などが、当時から同じ場所にあったことにも驚きです。

次に、私たちの取り組みについてお話しします。県立

2014年10月30日
徳島シビックセンター

文書館から提供された資料を基に、復元作業をしてきました。写真として残っているのは正面と東面がほとんどで、さらに多くは不鮮明なものです。簡単な当時の図面は存在しますが、具体的な寸法は不明確であり、特に立面に関する寸法が少なかったこともあり、本学の先生が写真や大規模な木造建築の一般的な寸法を基に推測し、詳細な立面図を作成いたしました。

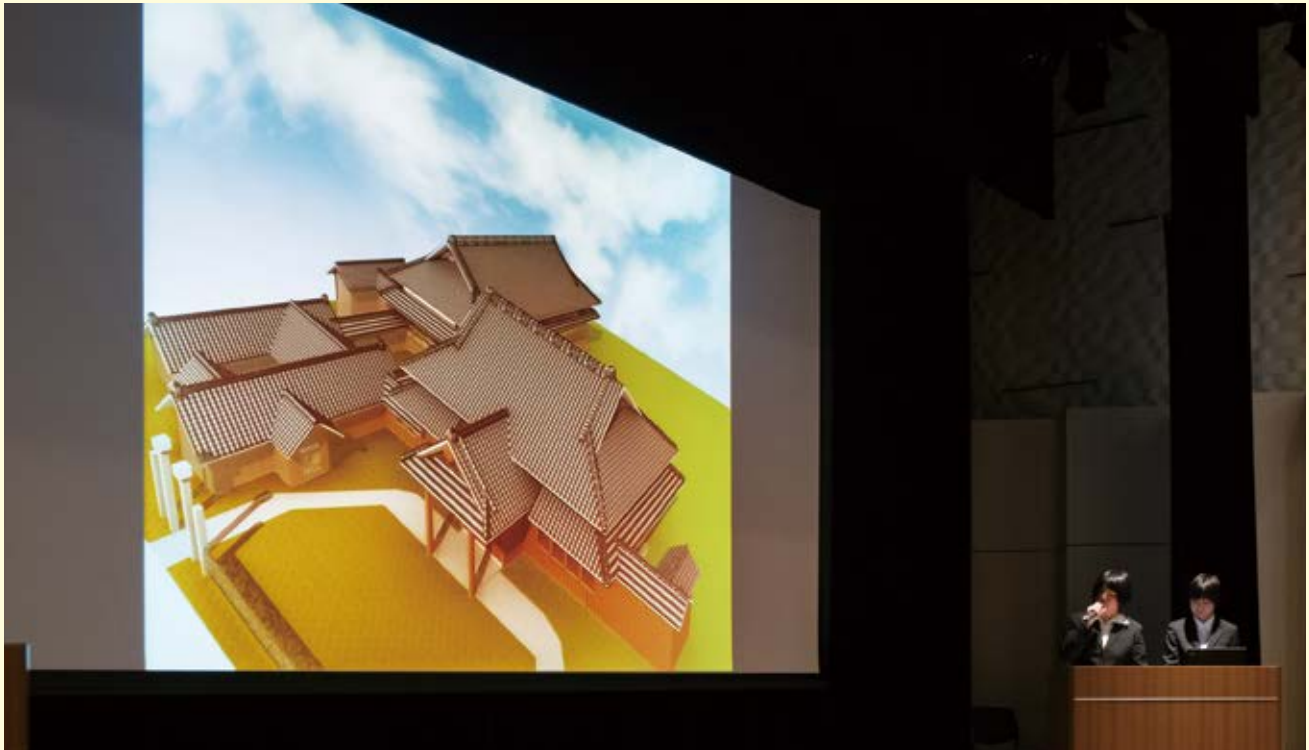
具体的な作成手順を説明いたします。まず最初に、できるだけ正確な図面が必要であることから、JW-CAD（コンピュータの設計支援ソフト）で平面図と立面図を作成しました。次にそれを基に比較的簡易に取り扱うことが可能で、レンダリングも含め表現力も豊かな「マイホームデザイナープロエイト」というソフトによって3Dを作成しました。

はじめに写真が残っている部屋から始めました。次に、瓦や外壁などを、そして写真から机や椅子などの家具を作成しました。また、現在の建築を対象とする「マイホームデザイナー」では表現できないものをパーツとして作成しました。実際に「千秋閣」を知る人からも新しい情報を得ることができたら、さらに正確な表現ができると期待しています。

平面図で説明しますと、玄関の正面に大広間があります。中庭には階段で下ります。中庭の左側に行くには渡り廊下の下をくぐっていきます。管理棟はお付きの方や医者の待機場所です。皇太子の御座所の南側に執務室が配置されています。この二部屋の写真が資料として残っていました。

入母屋の軒高はおよそ6メートルと考えられます。大広間と御座所より、管理棟がある南面の西側の方が床が下がっています。

次に作成過程を説明します。まず客室の、それぞれの部屋を作成していきます。次にふすまや窓を配置します。



屋根は入母屋と切妻で構成されているので、一面ずつ作成しました。外壁の板張りは、立方体の板を複数作成し、三次元と3Dの四画面を使って作成したパーツを組み合わせていきました。

では、復元した3Dの「千秋閣」の全貌を追っていききたいと思います。全体図は、推測のため寸法が不十分ですが、ご理解いただきたいと思います。瓦や外壁、格子などを一つずつ角度を変え組み合わせています。

東側アプローチから玄関へ入ります。階段を上がって、玄関扉を開けて屋内へ入ると、正面に見えるのが大広間の障子です。皇太子のいる御座所などの空間は人目に触れることはありませんが、大広間は普段、県民の会議を行う場として開かれていました。

御殿の東側は、一枚が幅3700mm、高さ2400mmの窓で、廊下全体に配置されています。その向こうには二の丸庭園が広がっています。東側には庭園に下りるための階段が配置されています。

大広間はおよそ150畳です。大広間は絨毯敷きになっています。北側廊下に出ると、ここからも二の丸庭園が見えます。現在の徳島城博物館の庭園と同じです。

執務室は自室とも呼ばれていました。こちらと同じように絨毯敷きです。御座所は御居間とも呼ばれていました。御座所の床は畳の上に絨毯が敷かれていました。

二の丸庭園は今後作成を予定しています。雨戸の戸袋は開口部の大きさから、かなり大きかったと考えられます。

半年かけて復元作業を行ってきましたが、作業途中で、最後の復元がまだです。不自然に見えるところもあったと思いますが、ご理解いただけたと思います。

以上で私たちの取り組みの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。





「建築はおもしろい」研究発表

これからの阿南駅前を考える

阿南工業高等専門学校 建設システム工学科

中 飯 久 美 子

2014年10月30日

徳島シビックセンター

阿南市は徳島県の極東部に位置し、人口は約7万7千人、徳島県では二番目に人口が多い自治体です。

日亜化学工業や王子製紙など大きな会社もあり、交通の中枢となる阿南駅は、一日1600人の人が利用しています。この阿南駅前には、全長1.2キロメートルに及ぶ富岡商店街があります。富岡商店街は、1400年ごろに築城されたといわれている牛岐城の城下町として栄えました。最もにぎわっていたとされる1980年代には、若者向けの雑貨店なども多く、商店が全体の八割を占め、それ以外は住宅で、空き店舗もほとんど見られませんでした。

現在の阿南駅は平成15年に建て替えられました。建て替える前の商店街の写真を見ますと、駅前には菓子店と書店があり、通りには多くの店舗が並んでいます。

現在の駅前、富岡商店街は、平日の昼間などは閑散としています。多くの店舗でシャッターが閉められています。また、歩行者は少なく、車の通行だけが見られます。商店街に空き店舗が増えた背景には、近隣地域に大型店舗が出店されたことが大きなきっかけとしてあります。

平成元年には、ショッピングセンターアオキ（現フジグラン）ができ、その周辺にも無料駐車場が備えられた大型店ができました。大型店ができると、商店街の中からも数店舗が大型店へ移転し、空き店舗の増加、商店街利用者の減少、さらなる空き店舗の増加という負のスパイラルが続きました。大型店舗はどの施設も、商店街から車で数分程度の位置にあります。その他にも高齢化や後

継者の不足、また交通の発達により若者が他県へ出ていきやすくなったことなど、全国の地方都市が抱える問題が、阿南駅前にもみられます。

そこで本研究では、これからの阿南駅前のあり方を検討するため、現在の富岡商店街の利用状況と地域住民が望む商店街のこれからの姿について明らかにすることを目的としたアンケート調査を実施しました。調査は、今年8月に富岡商店街で開催された「まちなみ芸術祭」の来場者を対象としました。

調査方法は、アンケートを芸術祭の受付で配布、会場内のアンケート回収箱で回収し、集計を行いました。期間中の芸術祭来場者はのべ千人。案内所への入館者数は342人、アンケート回答者は101人、回答率は29.5パーセントとなりました。

調査結果は、回答者の男女比は、ほぼ半数ずつ。年齢は40代が最も多く、続いて30代、50代でした。職業は、会社員が最も多く、続いて無職、公務員でした。専業主婦は無職に含んでいます。回答者の居住場所は、阿南市が最も多く、中でも商店街の近隣地域にある富岡町、横見町からの来訪が多くありました。

交通手段は、駅前に位置していますがJRは少なく、自動車での来訪がもっとも多くなっています。住所別に見ると、近隣地域からは自転車、徒歩が含まれますが、同じくらの割合で自動車となりました。

これまでの商店街への来訪経験について質問しました。芸術祭への来訪者は、約8割がこれまでも商店街へきたことがあるという結果でした。商店街への来訪目的は、夏祭りなどのイベントが最も多く、買い物、通行という順でした。来訪頻度は、年に数回程度が最も多く、続いて月に数回、週に数回でした。

年に数回という回答者の来訪目的は、イベントや観光が多く、現在の富岡商店街では、商店街が開催する行事には年に数回は来訪するが、日常的にはあまり利用していない層が最も多いことが予測されます。月に数回以上という人は、商店街にある店舗に立ち寄っており、毎日の人は商店街の住人や出勤で商店街を毎日通行する人が含まれました。来訪頻度と交通手段を見ると、週に数回以上日常的に来訪していても自動車が多くの利用されていることがわかりました。またJR利用者で、商店街を頻繁に訪れている人はいませんでした。

これからの富岡商店街にほしいものについて質問しました。これまでの商店街というと、買い物をする店舗や飲食店がほとんどを占めていましたが、商店街を地域の憩いの場とすることを視野にいれ、フリースペースや遊び場などを選択肢として含めました。最も欲しいものとして回答が多かったものは、フリースペース、続いて飲食店、屋内遊び場でした。欲しいもの、最も欲しいものを含め、最大三つまで回答してもらうと、駐車場と飲食店が最も多く、続いてフリースペースでした。

さらに具体的なイメージを自由に書いてもらいました。フリースペースは、日常的に趣味、情報交換、勉強、交流ができる無料スペース。また、バス時やJRを待てる場所などがありました。飲食店のイメージは、子供連れでもゆっくり利用することのできる遊ぶスペースのあるカフェといったものが複数ありました。

最後に調査結果をまとめます。商店街への来訪には、居住地域を問わず車を多く利用されている場合が多く、週に数回以上の日常的な来訪者も車で来訪していました。阿南駅前という立地であっても、JR利用者が商店街に来訪する頻度が非常に少ないという結果でした。またこれからの商店街には、本来の商店街機能であった店舗よりも、地域の人が自由に使えるフリースペースや屋内遊び場、ゆっくりくつろげる飲食店が求められていることがわかりました。車での来訪者のためには、駐車場も欠かせない施設であり、ほかの施設と同時に、駐車場施設も並行して整備する必要があります。



今回の調査対象はイベント来場者であり、地域住民の意見として一般化することに危惧はありますが、商店街の活動に興味を持っている住民の商店街へ足を伸ばす機会が増えることも予測されます。

今回の調査結果を受け、商店街にこのような施設があれば良いのではないかというイメージを提案します。敷地は阿南駅から徒歩3分程度の、現在は更地となっている場所を想定しました。建物の内部構成は、一階を飲食店にし、二階をフリースペースとして考えました。一階の飲食店は、小さな子供連れでもくつろげるカフェです。靴を脱いでくつろぐスタイルをベースに、子供が遊ぶことのできるスペースを作り、フラットで杉の温かみを感じることのできる床や低い机、ローソファのような低い椅子を使用することで、小さな子供が自由に遊んだり移動ができるような、子供にやさしい空間をイメージしました。

店内の雰囲気は、杉やしっくいのような自然素材を使用した、落ち着いた雰囲気のカフェをイメージしています。カフェの内容は、コーヒーやジュース、ケーキといった軽食のみを取り扱い、気軽に立ち寄り、友人同士で談笑できるカフェを想像しました。

軽食は富岡商店街内の菓子屋さんの提供により、ケーキやお菓子を販売することができれば、商店街の美味しいものを気軽に食べることができ、また名産の宣伝や売り上げに少しは貢献できると考えます。

二階のフリースペースは、学生や会社帰りの社会人が勉強したりリラックスすることのできる空間をイメージしました。一人でも気軽に利用できるように、個人スペースを多く確保し、会議なども使えるように一室用意しました。一階もですが、壁面を二面ガラス貼りにしていますので、道路側では広がりのある明るいイメージを、反対側では緑を楽しめる落ち着いた雰囲気のスーペースを提供できるように考えました。室内は一階と同様に、杉やしっくいのような自然素材を使用した、落ち着いた内装をイメージしています。来る人にとって、ホッとできるような憩いの場となれば良いと考えました。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

「建築は面白い」研究発表

新 みずの都提案

阿南工業高等専門学校 建設システム工学科
秦 健二



2014年10月30日
徳島シビックセンター

徳島県といえば阿波踊りが有名ですが、私が考える徳島県のもう一つの魅力というのは、何より自然の豊かさだと考えています。私は、阿南高専に入学する前は淡路島で生まれ育ちました。淡路島も自然は豊かです。しかし徳島では川、山、海などのさまざまな自然を、中心市街地のような人の行き来が活発なところであっても、身近に楽しむことができる、というところに私は魅力を感じています。その象徴と言えるのが、徳島の中心地でありながら、自然を気軽に楽しめる、通称「ひょうたん島」といわれるエリアだと考えています。周辺はすでに20年以上かけて、護岸やボードウォークなどが整備され、近年はひょうたん島の周辺に、にぎわいをつなぐ川の駅ネットワーク構想などが話題となっております。

こうした「ひょうたん島」周辺の中でも、私が一番好きな場所、川から海へ広がりが見える「万代中央ふ頭」です。

そこで今回は、これまでにさまざまな提案や取り組みがされている「ひょうたん島」周辺エリアの中でも「万代中央ふ頭」を取り上げ、私ならこんな空間が欲しいという思いで考える「新・水の都」を提案いたします。

「ひょうたん島」川沿いの南東に位置する「万代中央ふ頭」は、1999年まで徳島を代表する物流拠点の港でした。しかし近年、大型化する貨物船に水深が適さなくなったため、その拠点は別の地域へ移ることとなります。現在は「万代中央ふ頭」、第二倉庫などでさまざまなイベントが行われたり、店舗やオフィスが現れるなど、新しい動きなども見られます。

提案場所は、現在倉庫を利用したさまざまなイベントが開催されたり、親子カフェなどがある倉庫群一帯を敷地と想定いたしました。今回の提案のコンセプトは、「ふ

らっと立ち寄れるような場所」です。

私が高専の学生の時にこの言葉を初めて聞き、私が魅了される空間、私が将来建築家として設計したい空間を表す一つの言葉であると感じました。それからは地域活性化コンペなどに応募する際、毎回のようにこの言葉を使ってきました。しかしあるとき、本当に「ふらっと立ち寄れるような場所」を意図的に設計するということは、非常に難しく、さまざまな条件の元でないと実現しないという指摘を受けました。それからは本当に「ふらっと立ち寄れるような場所」というのをずっと頭の隅において考えてきました。そこで今回私が考えた条件は、まず趣味に強く関係するところ、過去に訪れたことがあるなど、すでに愛着を感じているところ、また野外活動などで休憩場所として適するところ、待ち合わせなどの時間調整の時、さらには旅行などで気持ちが高揚しているときなど、であると考えています。中でも趣味に関係するところ、愛着を持っているところというのは、「ふらっと立ち寄る場所」に大きく関係していると考えています。

「ふらっと立ち寄れる場所」、こうした場所を意図的に設計することは容易ではなく、現在ではコミュニティデザイナーなど、プログラムを計画する職場も現れました。そうした中で、徳島に住む、徳島を訪れる私たち世代、つまり10代後半から20代の世代、学生であったり仕事初めてまだ若い世代を焦点として、「ふらっと立ち寄れる場所」を今回の敷地に設計することに致しました。

ではなぜ「万代中央ふ頭」の位置に「ふらっと立ち寄れる場所」が必要なのか。私たちにとって、都会というものは商業的な魅力があり、利便性に対しても魅力があります。しかしそういった魅力ではなく、徳島の豊かな水

資源があるという魅力、徳島の中心市街地でありながら自然を存分に感じられる、どこか時間がゆっくりと過ぎるような、地方都市特有の魅力を、この「万代中央ふ頭」では十分に発揮することができ、こうした魅力が愛着へと繋がると考えました。

私たちの年代は交通手段が自転車や徒歩から、自動車へ移り変わる頃です。しかし私は徳島市内が、もっと歩きたくなる空間になればいいと考えています。そこで今回の敷地は「ひょうたん島」河畔に整備されている「ボードウォーク」から続く最終地点として、「万代中央ふ頭」まで歩きたくなるような場所を提案しようと考えました。また敷地をいったん更地にし、ゼロから考えるようにしました。

中心市街地から「ボードウォーク」で繋がる北東側は、エントランス的存在であると考え、グランドラインをフラットにし、「静の水辺」と名付けました。南西側は高くから水辺を見渡せるような小高い丘とし、「動の水辺」と名付けています。

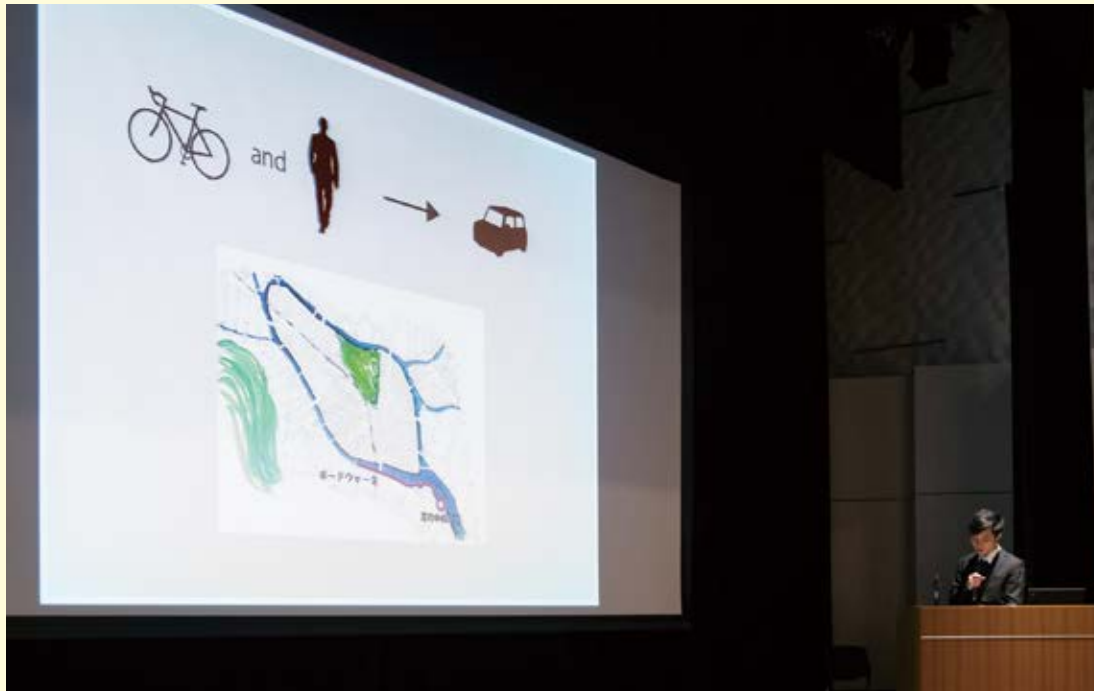
「ボードウォーク」の終着点、そこに行けば気持ちよくゆっくりとくつろげる、そこに行けば楽しいことが待っている、という思いを抱きながら、気持ちを高揚させつつ向かっていく場所であるとイメージしております。

まず「静の水辺」について説明いたします。ここには図書館を配置しました。付随してカフェやパン屋といったお店、中でも外でも気軽にテイクアウトができるような軽飲食店を配置します。カフェや図書館などは、自宅にあるような誘惑がなく、勉強や読書に集中できたり、程よい

人の気配でちょうど良い落ち着きがある、休憩スペースとしては最適な場所だと考えています。しかし現在、カフェや図書館は勉強を禁止しているところが多く、私たちの世代がちょっと気分転換に出かけて、勉強や仕事ができる空間はあまりありません。こうした、勉強する、本を読む、お茶を飲むなど、ゆっくりリラックスしたいときその口けーションが最適であると考えています。また、学生などの若者にこそ、同じ学校や会社のような狭い世界にとらわれるのではなく、いろいろな人の空気を感じる場、自然の魅力を肌で感じる場に出ていくべきではないでしょうか。「静の水辺」とはそういった空間です。

図書館と軽飲食店の前には、あけっぴろげな草原のような空間があります。ここでは昼寝や読書、勉強する人、時間帯によっては就学前の児童などを連れた親子、さらに様々なアクティビティをする人の為の空間です。すべての人にとって、「ふらっと立ち寄れるような場所」というのは、難しいと考えており、そういった場所ではなく、読書や喫茶が好きな人、また特に草木や水のような自然に安らぎを求める人にとって、ふらっと立ち寄れるような空間です。

先ほど配置しました図書館は、エントランスは吹き抜けとなっており、入ってすぐに天井まで届く高い本棚があります。エントランスはガラス貼りによって外部空間をよく感じられるようにしました。しかし、図書は紫外線によって劣化します。その為この本棚は、本棚としての利用ではなく、ピックアップ図書の一時的な展示を目的としています。一階には、雨天時を考えて屋内での閲覧コーナー、



さらに一定の広さを要する作業や長期的な研究の為の作業室も設けました。

二階は、階下の図書の劣化を考慮して、屋根に開けられた円形の窓から光を入れ、その光を一旦バウンドさせることによって、直射日光の入射を防ぎながら屋内が明るくなるように考えました。

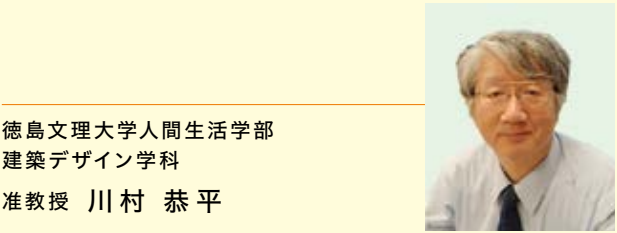
現在、整備計画にある音楽・芸術ホールは屋内であり、ボードウォークは野外ステージです。「動の水辺」では、私自身が自然に囲まれた場所で音楽を聴くということに魅力を感じているので、半野外で音楽の演奏や簡単な催し物を水辺で行うことができ、そして聴衆は水辺に向かって視聴できるステージを持った施設を考えました。この施設は自然を感じられるように、西面と東面をできる限りオープンにしています。

映画や映写を利用した催し物、以前第二倉庫で行われたLEDアートなどのイベントに対応して、西面はガラスでオープンですが、木製の扉で遮光を可能にしています。東面はエントランスとなるため、あけっぴろげですが、舞台のどん帳のように、建物の上部に巻き取り式で収納できる遮光装置ができればと考えました。「動の水辺」を小高い丘としたのは、観客席の段差を考慮しただけでなく、より視界が広がることによって海に広がる水辺

を、ステージを超えて見渡せるように考え、「静の水辺」との差別化を図りました。

舞台設備に加えてバーや飲食店を配置します。これは音楽を聴きながら野外で食事ができたり、ステージで催されているイベントと同時進行で飲食を楽しめるような場所を考えました。また、夏場是水辺のそばの気持ちいい風を感じられる、ビアガーデンなどもできます。時には長いテーブルを置き、数十人でバーベキューや飲み会などをしてもいいと思います。新しい出会いなどの機会も訪れるかもしれません。この「動の水辺」では、活動的なイベントを楽しみ、人々が活発に交流できる、そんな空間です。

「静の水辺」と「動の水辺」の二つの側面を持つ、新しい「万代中央ふ頭」の使い方は「ひょうたん島」周辺を「水の都」と呼ぶのであれば、「水の都」の新たな顔として存在します。しかしその顔はこれまでの商店街や徳島駅前のような商業活動が行われる場でもなければ、徳島市の中心的存在としての立ち位置でもありません。中心市街地から徒歩や自転車で気軽に立ち寄れる距離にあり、私たち世代、もしくは世代を超えてフリーでゆったりとくつろげる、これまでの徳島にはない、私にとっては理想的な空間です。ありがとうございました。



徳島文理大学人間生活学部
建築デザイン学科
准教授 川村 恭平

「千秋閣」は、皇太子行幸のご宿泊所として建設された大規模和風建築であり太平洋戦争で失われた貴重な文化遺産です。建築デザイン学科の学生によって、3Dによる「千秋閣」を再現の取組は貴重な経験と多くの知識を得られるものでした。県立文書館から提供された当時の写真や文書などの資料から寸法や色を再現する作業は困難を伴うことも多かったのですが、今回この取組を行った学生たちにとっては明治時代の大規模建築についての貴重な知識を得ることができたと確信します。



阿南工業高等専門学校
創造技術工学科
助教 池添 純子

この度は、学生の調査・研究活動をご支援頂き誠にありがとうございます。本校の建設コースでは平成21年度入学生より、建築に関する一連の科目を受講できるようなカリキュラムを整え、卒業と同時に2級建築士の受験が可能となりました。そのため、年々建築関係の職を目指す学生が増えています。今回の発表会は、建築を仕事にされている皆様の前で自分たちが考える建築を提案するということで、学生にとっては相当のプレッシャーがかかっていたようです。発表会ぎりぎりまで一生懸命発表準備に取組みました。現時点の精いっぱい成果を発表し、専門家の皆様にコメントを頂けたことは、学生にとって大変貴重な経験となりました。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



キャンペーンの風景



会員パネル展



建築は面白い！ 出前講座パネル展



キャンペーン会場エントランス



建築無料相談コーナー

建築材料展



継続的事業
Continuing Project

四国耐震診断 評定委員会について

四国耐震診断評定委員会 徳島幹事会
幹事長 堀川 誠一

昭和56年以前の建物について、現行建築基準法に適合していないことから、安全性の確認には、耐震診断基準により、現行建築基準法と同等の耐力を有しているか検討を行うことになりました。安全性の確認は、行政による確認業務となっているが、現行建築基準法ではなく、特別な各種診断基準により安全性の確認を行う必要があります。そこで、専門知識を有する大学教授、建築構造専門家により、行政に代わって安全性の確認を行っている機関です。委員長、副委員長2名に各県の幹事長4名を中心に、建物ごとの担当幹事が加わり、審議を行っています。担当幹事は、構造設計者の為に、計算内容の事前確認から評定会後の対応までの、評定完了まで担当し、建物ごとに任命されています。

●経緯

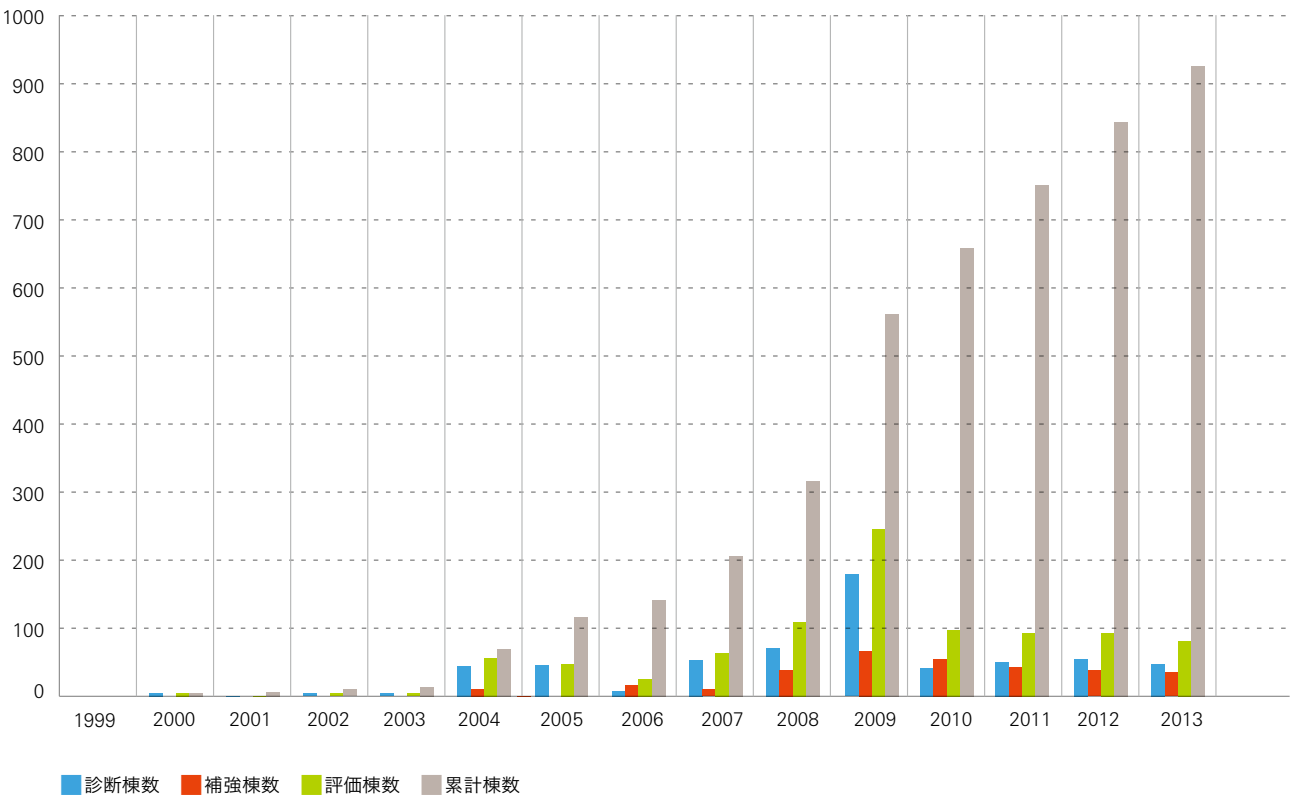
阪神淡路大震災を受けて、平成11年8月に四国四県の建築士事務所協会を支持母体として四国評定委員会が発足しました。高知工科大学の中田先生を委員長とし、副委員長には福山大学の南先生、学識経験者として工学博士の田村先生を中心として、各県幹事会の担当幹事が、建物の診断内容を審議していました。委員会においては、

構造設計者の能力向上を主眼とした部分もあり、物件当たりの審議時間は無制限で、委員の納得を得られるまで、数時間に及ぶこともありました。平成19年から、香川大学の松島先生を委員長とし、副委員長に高知工科大学の甲斐先生、高知工業高等専門学校の小田先生を中心として委員会が構成されています。近年は、評定物件が多いことから、本委員会での審議時間が制限されています。徳島県幹事会としては、制限された時間内での円滑な審議を確保するため、計算内容の事前確認を行い、委員会で協議すべき内容を集約し、本委員会に提出しています。徳島県内の建物評価棟数は、平成12年から15年までの4年間は少なく、年間4棟程度でした。平成16年からは年間50棟を超え、平成21年には年間200棟を超えました。耐震化率が上昇し、不適確建物が少なくなっていることから、平成22年から25年までは、年間90棟程度に減少しています。評定委員会の発足から14年間での累積棟数は900棟を超えています。これまでは、学校建物、官庁施設を中心としていましたが、今後は、避難路沿道建物、大規模建築物等の民間建物の診断、補強が中心になってくると思われます。



四国評定委員会

四国耐震診断評定委員会 徳島会評価棟数



四国評定委員会発足

木造住宅耐震化促進事業、この10年

木造住宅耐震化促進技術委員

立花 薫

木造住宅耐震化促進事業が始まって、今年で早10年になります。この事業を始めるに当たって、平成15年の春頃、マニュアル作成ワーキンググループの最初の会が行われました。徳島県や徳島市、建築士事務所協会、建築士会などのマニュアル作成編集委員会の委員が集まって、その後数十回のワーキンググループや先進県の視察などを行いました。そして本県出身で当時東京大学教授であった坂本功先生を総括アドバイザーに迎えてマニュアル作成編集委員会を開き、内容を充実させて、最初の「徳島県木造住宅耐震診断マニュアル」が完成しました。その後、引き続き「同耐震改修マニュアル上巻」「同下巻」「耐震改修工事実例集」が作られました。このマニュアルにより、相当回数の講習会を行い、耐震診断員の養成を行って耐震診断の業務に当たっていただきました。

この耐震診断では、「わが家の耐震チェック」という耐震診断結果が建物のアニメーションに表れる楽しい計算ソフトを使い、その計算結果を元にエクセルの報告書にするものでした。そして診断員が作成したこの報告書を各地域担当の技術委員がチェックし、完成度の高いものとして提出する体制をとりました。また、耐震改修においては耐震改修アドバイザーという画期的な制度を創設し

て耐震改修の適正化を図りました。

このマニュアルで2004年から約5年間事業を行ってきましたが、この間に耐震診断基準が改正されており、診断員登録の有効期限にあわせて、新診断法によるマニュアルの改訂を行いました。こちらは新しい診断方法で作られたWeeという診断計算プログラムを使い、この結果を元に徳島県独自の修正を行って診断結果とするものでした。このマニュアルも約5年間の運用の後、再度改訂された耐震診断基準に合わせて改訂し、2014年度から現行のマニュアルとして運用しています。

この補助事業ではこの10年間で13000棟あまりの耐震診断を行いました。しかし、ほとんどの建物が耐震性が低いという結果にもかかわらず、耐震改修は900棟程度と伸び悩んでいます。そういうこともあって、この事業とは別に、「すまいの安全安心なりフォーム支援事業」が創設され、もう少し簡便な方法で「命だけは守る」耐震改修支援事業が行われています。この事業の目的は木造住宅の倒壊を防ぎ、地震発生時の死者ゼロを目指すものです。制度は変わり多様化しながらも益々重要なものとなっています。



パンフレット



業務マニュアル

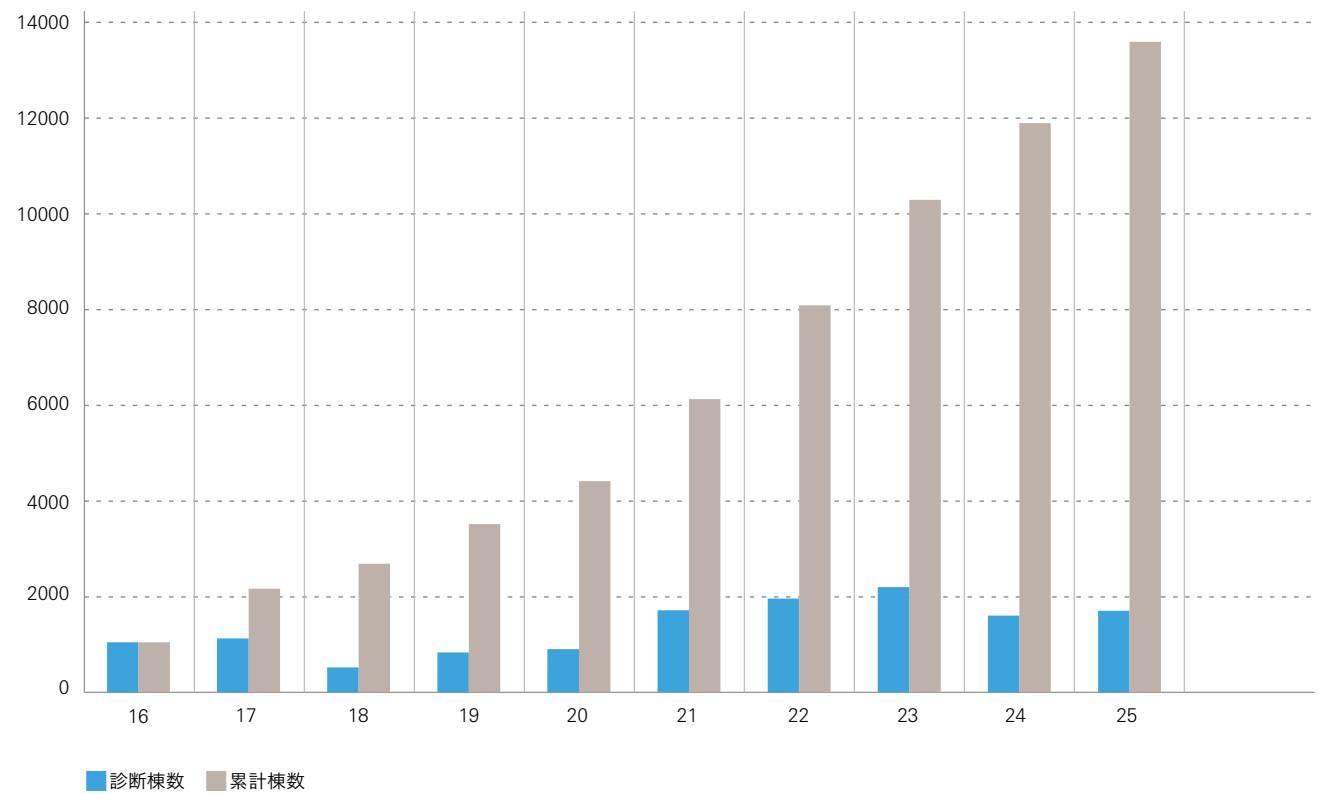


調査状況

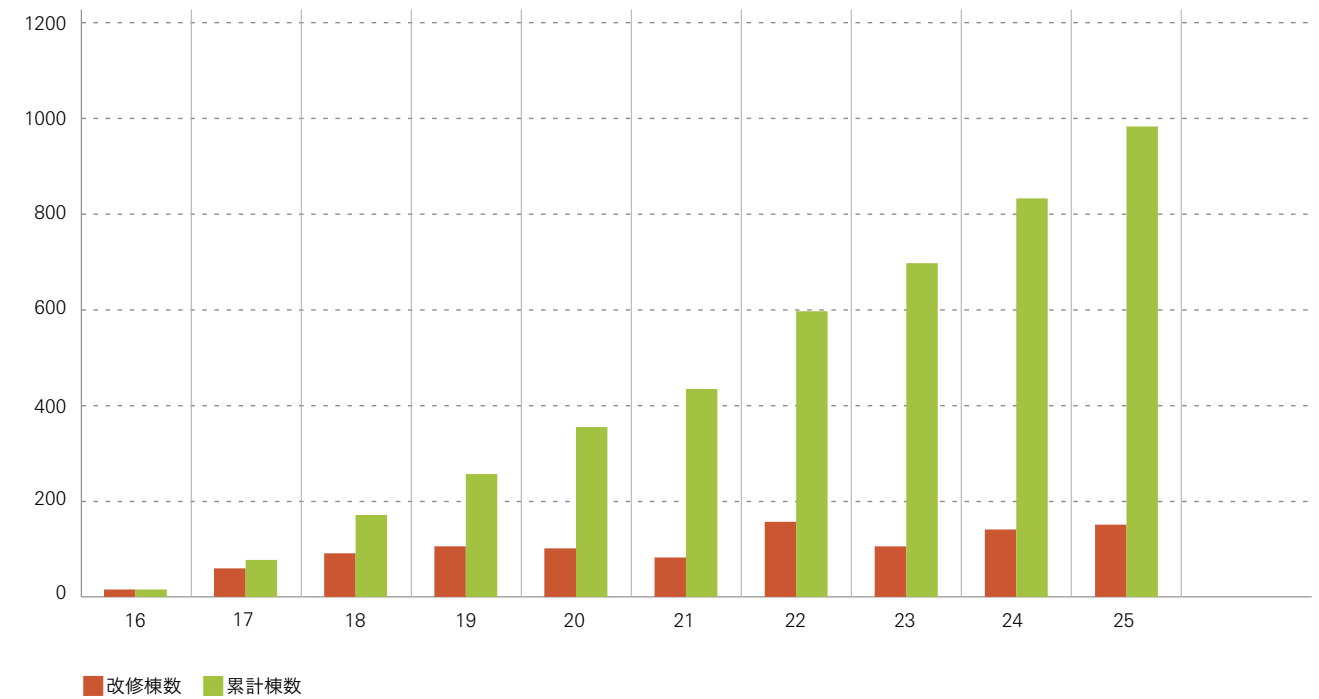


診断・確認状況

木造住宅耐震診断事業 診断棟数



木造住宅耐震診断事業 改修棟数



建築物耐震相談所

住宅・マンション・事務所・病院などの耐震診断や改修工事に関する相談をはじめ、建物の構造に関する相談に、建物構造に詳しい建築士が無料で応じます。



建築物耐震相談所では、次のような相談をお受けしています。

- 住宅の耐震改修をしたいんだけど、補強の方法や費用について教えてほしい。
- 住宅の耐震診断を受けたいが、どうすればいいの？
- 住んでいるマンションの耐震性はどうなっているの？
- 地震で家が倒壊しても命だけは守りたい。耐震シェルターについて教えて。

など、構造に関することなら何でも OK です。



建築士事務所の業務に対する苦情相談窓口について

建築士事務所協会では、建築士法第27条の5（苦情の解決）に基づき、建築主等からの建築士事務所の業務に対する苦情について解決の申し出があったときには、その相談に応じ必要な助言をするとともに、事情の調査や建築士事務所の開設者に対し迅速な処理を求める等の苦情の解決業務を行っております。

Q 相談窓口はどこにあるの？

都道府県にある建築士事務所協会に相談窓口があります。徳島県では、（一社）徳島県建築士事務所協会に相談窓口があります。

Q 建築士事務所協会でどんなことをするの？

一定規模以上の建物を新築したり、改築するには、建築士事務所に所属する建築士が設計と工事監理を行わなければなりません。その建築士事務所の仕事が適正に行われるように指導したり、設計・工事監理上の苦情相談窓口になったり、建築士事務所の開設者等に対する研修を行ったりしています。

Q 施工などその他の苦情相談は？

施工ミスなどその他の苦情は、建築士事務所協会では対応することが出来ません。建設工事紛争審査会、弁護士会、宅地建物取引業協会などにご相談願います。

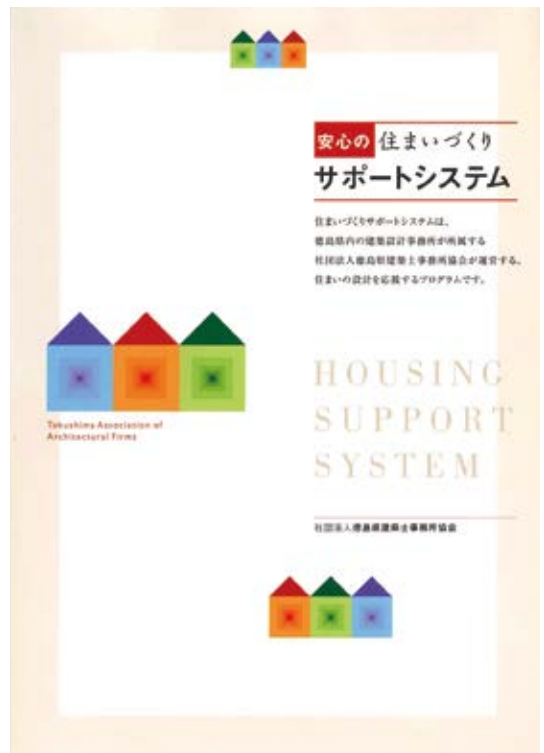
住まいづくりサポートシステム

住まいづくりサポートシステムは、これから新築やリフォームしようと考えている建築主の次のような疑問に答えるシステムです。

- どうすれば自分らしい住まいづくりができるか？
- 自分の住まいづくりに一番ふさわしい設計者は？
- あふれる住まい情報の中で何を信用したらいいの？
- 絶対に安心できる施工会社はどこ？

住まいづくりサポートシステムは、次のようなフローで進みます。

1. 情報提供
2. 説明・登録
3. 候補者選び
4. 候補者面談
5. 設計者決定
6. 設計監理契約
7. 設計
8. 施工会社決定





出前講座

「出前講座」担当副会長
丹羽 悟

はじめに

2010年（平成22年）1月号のアーガスアイに「ようこそ！建築の世界へ」の特集記事が掲載されました。これは、建築教育普及の現場で活動をしている本会の一会員が行なった講演の記録です。ある建設専門学校のオリエンテーションで、将来建築の世界に進む可能性のある高校生に対して、とにかく暗い話の多い建築業界だがそれでも建築は面白いんだ、建築って凄いんだと、胸を張って話して欲しい、そして建築の世界に引き込むような元気の出る話をして欲しいという学校側の要望に応じて話は構成されています。映像資料を交えて行われた講演は、予想以上に若い人たちの興味を喚起したようです。我々建

築設計を業とする者は、もっと積極的に「普通の」人々の中に入って行って、建築への思いを語るべきだと思う、それが不得手なために、建築設計という職能が未だに社会に十分認知されないでいると言ってもいいとの内容の記事です。
この記事に共に感銘を受けた、県建築開発指導課と当時当協会の西田会長において、徳島でも高校生を対象に建築の面白さを伝える何かをできないものかとの思いが具体的事業立案へ発展し、平成22年度に県の企画として「とくしま建築の未来担い手育成事業」を立ち上げ、当協会は講師派遣で協力をする共同企画が「出前講座」として実を結び実践の運びとなったものです。

「出前講座」の実践について（H22～26年度）

●実践校（県内の高校が対象）

H22.10.25	穴吹高等学校
H22.12.13	城東高等学校
H23.2.10	小松島高等学校
H23.6.27	穴吹高等学校
H23.9.9	中央高等学校
H23.10.17	川島高等学校
H23.10.31	板野高等学校
H23.11.25	徳島市立高等学校
H23.12.15	鳴門高等学校
H24.9.25	徳島北高等学校
H24.10.29	川島高等学校
H24.11.21	貞光工業高等学校
H24.12.12	徳島科学技術高等学校
H25.9.10	新野高等学校
H25.11.20	貞光工業高等学校
H25.11.29	徳島市立高等学校
H25.12.11	徳島科学技術高等学校
H26.12.1	新野高等学校
H26.12.17	徳島科学技術高等学校
H27.1.23	徳島市立高等学校

●内容

概要説明、スライド上映及び解説

「ようこそ！建築の世界へ」資料説明、質疑応答、その他
学校側の要望により一部内容変更を伴う

●講師（敬称略、アイウエオ順）

正会員：岡 明彦、榎原 賢治、上柿 重信、黒崎 仁資、
高田 正樹、時本 昌典、中野 真弘、丹羽 悟、坂東 賢一
以上9名
賛助会員：近藤 力、中川 泰秀、野田 久之、樋水 徹
以上4名



おわりに

次代を担う若い人たちに「建築は面白いんだ、建築ってすごいんだ」と感じてもらえるような時間にしたいとの思いで、いつも話をさせてもらっています。平成22年度から25年度にかけては、世界の建築の話に加えて、講師それぞれの建築への思いを語ることが講座内容でしたが、平成26年度は、40周年記念事業の一環として国内各地へ4チーム編成で資料作成の取材を敢行できたことで、内容を一新することが出来ました。今後も「面白く、すごい建築」の情報を収集し建築の魅力発信に貢献したいと思います。そのためには会員各位のご意見、ご希望を寄せていただくのは勿論の事、講師として協力いただける有志募集中ですのでよろしくお願いします。

出前講座2014 ようこそ！建築の世界へ

異国情緒あふれる町並みと 建築を訪ねて〔九州・長崎編〕 〔中野・黒崎・野田班〕

平成26年度の出前講座では、昨年までの「ようこそ！建築の世界へ」の続編として、異国情緒あふれる町並みと建築を訪ねて〔九州・長崎編〕と題して、長崎の町並みや建築の現地取材を行い、その成果を出前講座での教材としてまとめました。



図1 長崎の町並み・建築物リスト

これまでの出前講座で繰り返し語られてきた、「建築とは？」という問いに対して、今回の長崎編では、「建築とは時代の文化を象徴するものであり、思想と学問を父として、産業と技術を母として、生まれる子供が建築である。」という、「丈六寺の姿」という本に書かれている一節のように、時代の文化の象徴ともいえる長崎の建築群と町並みを紹介することにしました。

長崎は、日本が鎖国されていた江戸時代、唯一西洋のオランダや中国（明・清）などとの貿易が許された国際貿易港で、西洋文化や中国文化と日本文化が互いに触れ合い、また融合しながら多文化都市として発展していきました。

江戸時代の鎖国期、長崎は幕府直轄領で、オランダ人は出島に、中国人は決められたエリアに唐人屋敷を設けて、外国からの人と文化を受け入れてきました。江戸時代末期、鎖国が解かれて開国してからは、外国船の開港場となり外国人居留地が設けられるなど、明治維新後も国際貿易の玄関口として栄えました。

中国からは、中国臨済（禅）宗の一分派である黄檗宗が隠元隆琦らにより伝わりました。キリスト教の禁教令が出され、寺請け制度により、長崎に住む中国人（華僑）は、自らの檀那寺を建てることを求められ、長崎三福寺（聖福寺を加えて四福寺ともいう）と呼ばれる唐寺を建設しました。

それらの唐寺のなかには、中国の建築材料を中国本土で加工切り組み、その部材を船で運んで建てたとされる寺院建築も見ることが出来ます。（図3）

また、長崎は、日本にキリスト教を最初に伝えた、フランシスコ・ザビエルが、三度に渡って布教に訪れた平戸をはじめ、五島列島や長崎市の海外など、日本におけるキリスト教の伝来と繁栄、弾圧と250年もの長い間かくれキリシタンとして潜伏、そして復活という、世界的にも類を見ない布教の歴史をもつところで、その歴史を物語る教会建築やゆかりの資産は、ユネスコの世界遺産暫定リストに登録されています。（図2）

今回取り上げたのは14件でしたが、五島列島の新上五島市や長崎市、平戸市の教会建築など9件をはじめ、中国文化との関わりの深い黄檗宗寺院や孔子廟、開国後の長崎で外国人居留地に建てられた様々な西洋建築群など、時代の文化を象徴するさまざまな建物や異国情緒あふれる町並みを今に伝えています。



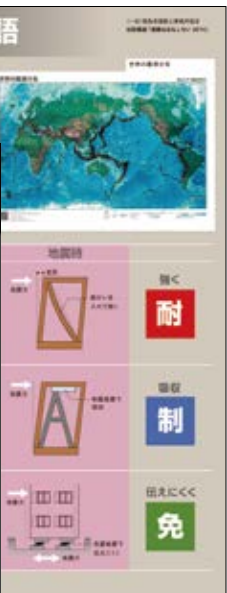
図2 頭ヶ島天主堂（新上五島市・石造・1919竣工）



図3 崇福寺第一峰門（長崎市・木造・1696竣工）

出前講座2014 ようこそ！建築の世界へ

「出前講座」地震対策物語について 〔上柿・高田・樋水班〕



私達は、「地震対策物語」と題して、建築物の耐震技術・工法を題材とした「建築の世界」についての講座資料を作成する事としました。

地震対策に関する技術・工法について、日本一の超高層ビル「あべのハルカス」の最高水準技術や、日本最古の球場である「甲子園球場」の耐震改修・リニューアル工事などの実例を基に、その計画・設計時や、工事施工中の創意工夫などの説明を通じて、「建築」の中には様々な分野があり、それぞれに協力し合って一つの「建築」が成り立っている事についても説明を行っています。

また、現在の耐震技術・工法の中には、古代木造建築物に使用されている技術との共通点が見られる事や、一般木造住宅にも、最新の耐震技術が採用され始めている事、既存住宅の耐震改修工事についてもふれ、学生の方々のも解りやすいように、身近な地震対策についても説明を行うよう心掛けています。

「あべのハルカス」については、設計・施工者である竹中工務店の構造設計担当者に直接お話しをお聞きしたり、ハルカス内のホテルに宿泊し、昼夜の超高層よりの景色が見られたり、オフィス内の奥村組事務所より、室内から高層部の耐震技術を直視出来たりとなかなか出来ない良い経験を致しました。

「阪神甲子園球場」では、現地で所有者・施設管理担当者の方々だけでなく、工事の設計・施工者である大林組の構造設計担当者の方々に質疑応答の機会を設けて頂く事が出来ました。この一大プロジェクトを実現させた方々の情熱が、ご説明より伝わってきて圧倒されるばかりでした。現地見学では、球場内の耐震改修箇所やリニューアル工事箇所を実際に見学させて頂き、資料で知る以上のスケールの大きさや、技術的な困難さを感じる事が出来ました。

その他、古代の耐震技術の参考となる木造建築物として、清水寺の舞台や法隆寺の五重塔について見学したり、木造住宅の耐震技術として、住友ゴム工業・加古川工場にて、最新の地震対策製品について取材を行いました。県内でも最新の地震対策技術である免震装置を設けた官庁施設や総合病院などの大規模建築物が新築されており、その紹介や取材内容について説明を行っています。

この講座資料を作成するに当たり、沢山の方々にご協力を頂きました。その事に感謝し、今後の出前講座では、取材で得られた内容を出来るだけ解りやすく、ご担当された関係者の方々の「建築」に関する思いや熱意が、学生の方々に伝わるような出前講座として、「建築」に少しでも興味を持ってもらえるよう努力していきたいと考えております。

出前講座2014
ようこそ！建築の世界へ

おもしろい建築探訪 取材報告

〔樫原・岡・近藤班〕

おもしろい建築探訪チームは、近藤力さんのリーダーシップの基、東京都内にある建物で「建築はおもしろい」をテーマに5月より12回の打合せを重ねて19物件を選考しました。大事な時に、事は起こるものです。出発の前日に足を痛めてしまい、東京での歩き移動が不安でした。不安を抱えながら飛行機に乗込みました。空港からモノレール、電車の乗継で足をかばいながらの辛い移動となりました。東京は曇り空で昼からは雨の予報でした。手荷物を最小限にする為、新橋の宿泊ホテルに直行しました。新橋を拠点として3日間の取材活動のスタートです。時刻は正午。まずは、腹ごしらえと山手線のガード下の信州そば専門店「そじ坊」で取材成功を願い昼食をとりました。取材のスタートは、ファッションの街。表参道、青山、渋谷です。取材は9件の建築物を4時間で行いました。タクシーに乗るほどの距離もなく徒歩での移動でした。準備した行動計画表と建物を示す

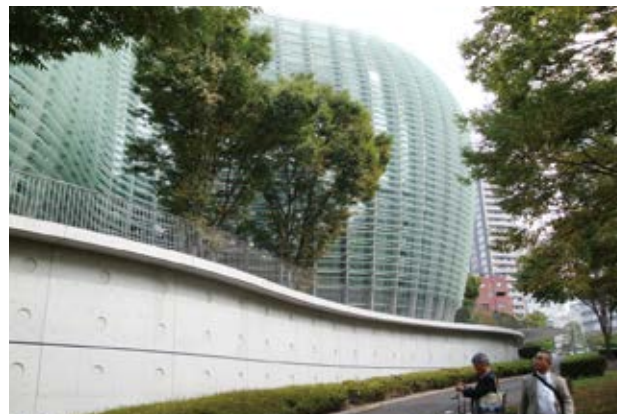


地図は完璧でした。予定外なのは、私の足が悲鳴をあげ、雨も降りだしたこと。取材を進める中、試練ばかりではありません。中でもパイナップルケーキの店には、元気を頂きました。6cm角の木材を複雑に組合せた地獄組で建物を支え、木材は現しでユニークな建物です。一度組むと外せない地獄組の構造体は日本の伝統文化を感じました。店内へ入ると1階はエントランス、2階はカフェ、3階はWCと予備室でした。店内の空間は木造で構成され躯体を表しでデザインされていました。取材を終えカフェでパイナップルケーキを頂き、心ませる一時でした。時計を見ると午後2時過ぎ。次の取材へと店を後にし、青山から表参道、渋谷へ取材をしながら徒歩での移動でした。9件の建物取材を終えたのは、午後4時。次の目的地の新宿を目指し山手線で移動しました。今日の取材は、モード学園コクーンタワーと午後6時に

アポイントを取ってある虎の門ヒルズ森タワーの2件になりました。コクーンタワーの取材を終え、予定通り虎の門ヒルズに午後6時到着。西松建設㈱の近藤洋さんから丁寧な説明を受けました。建物の地下を環状二号线が通っている。1フロア 1,000坪で無柱空間を実現したオフィスフロア。今後、この一帯は虎の門ヒルズを中心に再開発事業が進む予定です。東京のパワーを感じました。今日の最終目的地である恵比寿ピアホールに着いたのは午後8時。美味しいビールと食事を頂き1日目が無事終了しました。私の足の痛みは和らぎ回復していました。

2日目は、快晴の天気でスタートできました。中央線沿いにある2件を午前中に取材しました。午後は、都心に戻り築地市場近くのすし店「すしざんまい」で美味しい昼食を頂きました。銀座では、ミキモト銀座II、デビアス銀座本店、ヤマハ銀座ビルの取材をし、午後3時に終了しました。夕食まで余裕がある為、3日目に予定されていたスパードライホールと顔のトイレの取材をしました。夕食は、午後7時からマッカーサー通りのイタリア料理店「今夜もワイン」で坂東チームと合流し、おおいに盛り上がり、ワインも沢山頂きました。健闘を讃え合い、明日の取材の備え午後9時には店を後にしました。2日目を取材終了しました。

3日も快晴の天気でスタートできました。午前10時の開館に合せ六本木の国立新美術館に移動しました。建物の外観と内部の取材を終え、図書室で国立新美術館に関する閲覧し予定していた19物件の取材を終了しました。今回の取材を通じ「建築はおもしろい」と再認識しました。協力を頂いたすべての皆様に感謝いたします。



国立新美術館

出前講座2014
ようこそ！建築の世界へ

木の持つ可能性としての未来

〔坂東・時本・中川班〕

教育活動の一環及び建築士の育成として、徳島県内の高校へ出向き今後の進路を検討中の生徒さんたちに建築物の紹介や建築士や建築士事務所の業務や役割を紹介し建築の意識向上を目指しやってきましたが協会40周年記念を機に取材を行いました。環境問題が取り上げられる昨今、国において平成22年10月に「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」が施行され、同年12月には徳島県において「とくしま木材利用指針」が策定されました。

この取材班では、建築は構造や規模、用途あるいは年代、地域性によって様々ですが、高校生に分かりやすく説明するためには、テーマをきめて紹介していくことだと考えました。そこで、木構造をキーワードとしてとらえ、さらに、この法律が閣議決定される際に中心的な存在であった東京大学の教授陣に着目しました。そして、コアメンバーが設計に携わっている事、また、環境問題に関連して自然と共生することで見えてくるもの、さらには、社会の宝物である子供たちの環境に良い効果があると思えるもの、また、以前は不可能と思われた大スパンで大空間を形成しているものを高校生に紹介し、木構造のもつ可能性を伝えたいと考えました。

まず最初に木構造の今までにないような建物取材させていただき、その建物を使用している方々の意見も聞いて、木の建築が人々に与えている力のようなものが、我々の木に対する考え方を新たなものにしました。JA西印旛の建物では物品販売の為の大空間が必要なためにロングスパンを可能にした張弦梁を採用して大きな空間を創っています。

次に環境問題に関連して自然との共生を図り、温故知新、釘を使わない㍻組を採用した長池公園自然館、そして木が園児に与えるという心理的な影響、長い軒の出が子供たちを包んでいるような、ひらお保育園。構造的にとってもおもしろかった東京大学弥生講堂、シェル構造といわれる特殊な構造、これらを紹介いただいた東京大学大学院教授の稲山正弘教授に直接お会いして木に対する思い入れなどを聞くことができました。そして、安倍総理大臣の祖父、岸信介邸取材に行きました。木構造という点では少し違うかもしれませんが、木造2階建て一部RC造です。伝統的な数寄屋建築の美と、現代的な住まいとしての機能と両立を目指した邸宅です。

今回の木構造がキーワードの建物は古くなってくると汚れて奇麗ではないが、木の持っている美しさや心休まる空間、木が織りなす美のような、心地よい温かさを感じた気がしました。



JA西印旛内部



東大弥生講堂内部



ひらお保育園外部

沿革と概要

The History of 40 Years

徳島県建築士事務所協会
40年の歩み

西暦【年号】	あゆみ	出来事
1974年【S49】	●【社】徳島県建築設計事務所協会創立（正38・賛42） 所在地：徳島市新蔵町1丁目30 ●初代 速水 剛 会長就任（4期・8年）	三木武夫内閣誕生
1976年【S51】	●初代 柴田 秋男 賛助会会長就任（6期・12年）	日本初の五つ子誕生
1980年【S55】	●事務局移転 所在地：徳島市富田浜2丁目10 建設センター 5階	
1982年【S57】	●二代 西田 成一 会長就任（3期・6年）	ホテルニュージャパン火災
1984年【S59】	●事務所協会創立10周年（正64・賛90）	グリコ・森永事件発生
1987年【S62】	●協会名変更 変更後：（社）徳島県建築士事務所協会	国鉄民営化 JR発足
1988年【S63】	●三代 森下 芳雄 会長就任（1期・2年） ●二代 船越 敏夫 賛助会会長就任（2期・4年）	消費税法成立（平成元年施行）
1990年【H2】	●四代 滝本 勇 会長就任（2期・4年）	バブル経済崩壊
1992年【H4】	●三代 三谷 真喜夫 賛助会会長就任（2期・4年）	
1994年【H6】	●五代 西田 友二 会長就任（1期・2年） ●創立20周年 記念式典・祝賀会開催（正136・賛242） ●メーカーリスト配布	関西国際空港が開港
1995年【H7】	●阪神・淡路大震災（M7.3）	地下鉄サリン事件発生
1996年【H8】	●六代 榎野 清 会長就任（2期・4年） ●四代 木内 誠一 賛助会会長就任（2期・4年） ●耐震改修促進計画（徳島県・徳島市）策定	
1997年【H9】	●耐震相談所開設（徳島県）	消費税5%に引き上げ
1999年【H11】	●四国耐震診断評定委員会 発足 ●苦情相談業務 指導委員会 設立	
2000年【H12】	●七代 小川 良一 会長就任（3期・6年） ●五代 井川 清 賛助会会長就任（3期・6年）	介護保険制度スタート



西暦【年号】	あゆみ	出来事
2004年【H16】	●創立30周年 記念事業開催（正110・賛155） 「防災・減災対策フォーラム」 ●木造耐震診断事業 開始	
2005年【H17】	●耐震強度偽装（姉齒）事件	JR福知山線脱線事故発生
2006年【H18】	●八代 速水 可次 会長就任（2期・4年） ●六代 美馬 秀夫 賛助会会長就任（4期・8年） ●安心の住まいづくりサポートシステム事業開始	神戸空港開港
2009年【H21】	●事務局移転（現在地） 所在地：徳島市幸町3丁目55（自治会館2階）	裁判員制度による初の裁判が始まる
2010年【H22】	●九代 西田 功 会長就任（2期・4年） ●出前講座開始	小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
2011年【H23】	●「ゆめタウン」キャンペーン・講演会開催（2月） ●東日本大震災（M9.0）	サッカー女子W杯「なでしこジャパン」初の世界一に
2013年【H25】	●一般社団法人へ移行	2020年夏季五輪東京開催決定
2014年【H26】	●十代 小西 誠一 会長就任 ●七代 富登 篤弘 賛助会会長就任 ●創立40周年記念事業開催（正99・賛107）	消費税8%に引き上げ



徳島県建築士事務所協会の軌跡

2004年～

2004年（平成16年）

1月19日	第1回木造住宅耐震診断事業検討委員会
1月25日	市民防災研修会（徳島市消防局と共催）講師及び相談員4名派遣
1月30日	第2回木造住宅耐震診断事業検討委員会
2月13日	臨時総会（建設センター） 平成16・17年度役員改選
3月5日	第3回木造住宅耐震診断事業検討委員会
3月30日	木造住宅耐震診断講習会（建設センター）受講者：200名
4月13日	30周年事業委員会の開催（建設センター）
4月14日	徳島県委託業務・「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員：10名）
4月23日	30周年事業委員会の開催（建築士会会議室）
5月12日	30周年事業委員会の開催（建設センター）
5月13日	第2回木造住宅耐震診断講習会（阿南市文化会館）受講者：113名
5月14日	第3回木造住宅耐震診断講習会（グリーンヒル穴吹）受講者：97名
5月17日	30周年事業委員会の開催（徳島プリンスホテル）
5月21日	平成16年度第30回通常総会（徳島プリンスホテル） 創立30周年記念事業開催（徳島プリンスホテル） 記念フォーラム「防災・減災対策フォーラム in 徳島」約550名参加 記念式典、祝賀会
6月16～17日	既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修技術講習会（郷土文化会館）受講者：108名
7月27～28日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
8月26～27日	既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修技術講習会（建設センター）受講者72名
9月14日	木造住宅耐震改修アドバイザー養成講習会（ロイヤルガーデンホテル）受講者：15名 木造住宅耐震改修施工者向け講習会（ロイヤルガーデンホテル）受講者：84名
9月16日	木造住宅耐震改修アドバイザー養成講習会（グリーンヒル穴吹）受講者：16名 木造住宅耐震改修施工者向け講習会（グリーンヒル穴吹）受講者：93名
9月17日	公庫住宅調査技術者講習会（建設センター）受講者：109名
9月22日	木造住宅耐震改修アドバイザー養成講習会（郷土文化会館）受講者：68名 木造住宅耐震改修施工者向け講習会（郷土文化会館）受講者：211名
10月7～9日	第29回建築士事務所全国大会（富山大会）19名
10月13日	10月第2第3水曜日建築無料相談所（第3水曜日台風にて中止） 阿南合同庁舎 2名派遣 / 脇町合同庁舎 2名派遣
10月14日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）4名
10月17日	那賀川町社会福祉協議会より依頼 相談員2名派遣
10月23日	新潟県中越地震・マグニチュード6.8
10月29日	10月度定例会（徳島プリンスホテル）
12月3日	「管理講習会・開設者研修会」講習会（建設センター） 受講者：46名
12月14日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名

2005年（平成17年）

2月21日	木造住宅耐震診断員養成講習会（県立工業技術センター）受講者165名
2月23日	2月度定例会（建設センター）
3月18日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名
4月6日	徳島県委託業務「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員：10名）
5月26日	平成17年度第31回通常総会（建設センター）
6月28～29日	日事連四国ブロック協議会（愛媛県）3名
7月14～15日	日事連中四国ブロック協議会（山口県）4名
7月30日	建築無料相談所（沖洲コミュニティセンター）2名派遣
9月3日	建築物耐震無料相談所（県防災センター）2名派遣
9月10日	建築物耐震無料相談所（県防災センター）2名派遣
9月16～17日	第30回建築士事務所全国大会（埼玉大会）12名
9月17日	建築物耐震無料相談所（県防災センター）2名派遣
9月21日	徳島県県土整備部との意見交換会（建設センター）2名出席
9月24日	建築物耐震無料相談所（県防災センター）2名派遣
10月21日	日事連中四国ブロック協議会（香川県）3名
10月28日	10月度定例会（徳島プリンスホテル）
11月17日	構造計算書偽造・国土交通省公表 管理講習会・開設者研修会」講習会（建設センター）受講者：87名
12月1日	「伝統構法に重点をおいた木造住宅の耐震診断と補強方法講習会」建設センター 受講者76名
12月8日	「震災復旧のための震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針講習会」（建設センター） 全構造・受講者：104名 木造・受講者：17名
12月16日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名

2006年（平成18年）

1月27日	新年例会（建設センター）
2月18日	耐震相談所・鉄骨構造協同組合より依頼（アスティ徳島）相談員 2名派遣
2月22日	日事連中四国ブロック協議会（香川県）2名
3月6日	建築士会・事務所協会同会議（建設センター）出席者 7名
4月1日	自由民主党建築設計議員連盟議員と（社）徳島県建築士事務所協会との意見交換会（徳島プリンスホテル）出席者：9名
4月5日	徳島県委託業務・「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員10名）
5月26日	平成18年度第32回通常総会（建設センター）
6月20日	耐震改修アドバイザー養成講習会・改修施工者向け講習会（阿南市）受講者 28名
6月22～23日	日事連中四国ブロック協議会（高知市）4名
6月23日	耐震改修アドバイザー養成講習会・改修施工者向け講習会（美馬市）受講者 41名
6月27日	耐震診断員養成講習会（建設センター）受講者 111名 耐震改修アドバイザー養成講習会・改修施工者向け講習会（建設センター）受講者165名
7月6～7日	日事連中四国ブロック協議会（広島市）4名
9月2日	相談員派遣・㈱ゲンボクより依頼（アスティ徳島）2名派遣
9月15日	適合証明技術者業務講習会（建設センター）受講者 97名
9月24～25日	安心の住まいづくりサポートシステム展（徳島プリンスホテル）
9月25日	9月定例会（徳島プリンスホテル）
10月6日	第31回建築士事務所全国大会（東京大会）7名
10月11～12日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名
10月17日	日事連四国ブロック協議会と四国地方整備局との意見交換会（高松市）2名
11月13日	徳島県営繕課との意見交換会（建設センター） 11名
11月15日	「管理講習会・開設者研修会」（建設センター）受講者 104名
12月14～15日	事連中四国ブロック協議会（高松市）4名

2007年（平成19年）

1月19日	新年例会（建設センター）
2月14日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）6名
3月22日	建築士法改正、公益法人改革に伴う建築指導開発課との意見交換会（建築士会合同）建築士会会議室 出席者：4名
4月4日	徳島県委託業務・「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員10名）
5月25日	平成19年度第33回通常総会（建設センター）
5月28日	「建築基準・建築士法等の一部を改正する法律」講習会（士会合同）建設センター・受講者：22名
6月16日	「建築基準・建築士法等の一部を改正する法律」講習会（士会合同）建設センター・受講者：21名
7月12日	日事連四国ブロック協議会（徳島ワシントンホテル）6名
7月12～13日	日事連中四国ブロック協議会（徳島ワシントンホテル）11名
7月16日	新潟県中越沖地震・マグニチュード6.8
7月24日	耐震改修施工者向け及び耐震改修アドバイザー講習会（建設センター）受講者：158名
8月1日	日事連四国ブロック協議会（川之江市）2名
9月28～29日	安心の住まいづくりサポートシステム展（徳島プリンスホテル）
9月29日	9月度定例会（徳島プリンスホテル）
10月5～7日	第32回建築士事務所全国大会（大分大会）18名
10月30日	日事連四国ブロック協議会（高松市）3名 日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
11月15日	「管理講習会・開設者研修会」講習会（建設センター）受講者：78名
11月30日	徳島県営繕課との意見交換会（建設センター） 11名
12月14日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）4名

徳島県建築士事務所協会の軌跡

2008年（平成20年）

1月25日	新年例会（阿波観光ホテル）
2月12日	日事連四国ブロック協議会（高松市）3名 日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
2月26日	建築設計・監理者の生コンクリート講習会 （建設センター）受講者 77名
3月11日	四国地方整備局と四国四県建築団体等との意見交換会 （高松サンポート合同庁舎）出席者 2名
4月2日	徳島県委託業務・「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員10名）
5月16日	四国地方整備局と四国四県建築設計関係団体等との意見交換会 （高松市）出席者1名
5月30日	平成20年度第34回通常総会（建設センター）
6月26日	日事連四国ブロック協議会（岡山市）4名
6月26-27日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）4名
8月5日	日事連四国ブロック協議会（高松市）2名
9月4日	「適合証明技術者」講習会（建設センター）受講者：62名
10月3日	第33回建築士事務所全国大会（東京大会）5名
10月11日	平成20年度臨時総会（定款の一部変更） 徳島グランヴィリオホテル 定例会（徳島グランヴィリオホテル） 建築材料展、住まいづくり相談会、耐震相談会 （徳島グランヴィリオホテル）
10月21日	日事連四国ブロック協議会（岡山市）3名 日事連中四国ブロック協議会（岡山市）3名
11月28日	徳島県営繕課との意見交換会（建設センター）11名
12月9日	日事連四国ブロック協議会（高松市）2名 日事連中四国ブロック協議会（高松市）2名

2009年（平成21年）

1月20日	木造住宅耐震講習会（郷土文化会館） 受講者：285名
1月27日	木造住宅耐震講習会（阿南市・夢ホール） 受講者：124名
1月29日	木造住宅耐震講習会（脇町・祥雲閣）受講者：117名
1月30日	新年例会（建設センター）
2月9日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名
4月1日	徳島県委託業務・「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員10名）
5月10日	住宅デー（徳島市）に耐震相談員派遣
5月29日	平成21年度第35回通常総会（建設センター）
6月11日	平成21年度第1期管理建築士講習（郷土文化会館）
6月16日	日事連四国ブロック協議会（高知市）5名
6月16-17日	日事連中四国ブロック協議会（高知市）5名
7月14日	木造住宅耐震講習会（防災センター）受講者：92名
9月11日	平成21年度第2期管理建築士講習（あわぎんホール）
9月26日	「協会事務所」移転 建設センター（5F）から自治会館（2F）へ
10月9日	第34回建築士事務所全国大会（愛媛大会）27名
10月20日	日事連四国ブロック協議会（高松市）2名 日事連中四国ブロック協議会（高松市）2名
10月23-24日	建築材料展、住まいづくり相談会、耐震相談会 （徳島グランヴィリオホテル）
10月24日	10月度定例会（徳島グランヴィリオホテル）
10月24-25日	山と木と緑のフェアに耐震相談員派遣
11月27日	「業務報酬基準・工事監理ガイドライン講習会」 西田講師、小西講師
12月8日	日事連四国ブロック協議会（岡山市）2名 日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名
12月17日	木造住宅耐震講習会（ふれあい健康館）受講者：53名
12月25日	徳島県営繕課との意見交換会（事務局会議室）13名

2010年（平成22年）

1月29日	新年例会（ホテル千秋閣）
2月16日	平成21年度第3期管理建築士講習（あわぎんホール）
2月23日	徳島市との意見交換会（徳島市役所）8名
2月26日	日事連四国ブロック協議会（高松市）2名 日事連中四国ブロック協議会（高松市）2名
4月1日	徳島県委託業務・「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員11名）
5月28日	平成22年度第36回通常総会（建設センター）
6月14日	日事連四国ブロック協議会（岡山市）5名 日事連中四国ブロック協議会（岡山市）5名
7月26日	木造住宅耐震講習会（ふれあい健康館）受講者：76名
9月6日	日事連中四国ブロック・新公益法人制度移行勉強会事務局会議 （岡山市）2名
9月10日	適合証明技術者業務講習（ふれあい健康館）受講者：52名
9月15-16日	H22年度研修旅行（滋賀県・佐川美術館）参加者：20名
9月22日	日事連四国ブロック協議会（高松市）2名
10月1日	第35回建築士事務所全国大会（東京大会）7名
10月7日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）2名
10月25日	出前講座・穴吹高校
10月30日	10月度定例会（徳島グランヴィリオホテル） 建築材料展、住まいづくり相談会、耐震相談会 （徳島グランヴィリオホテル）
11月8日	平成22年度（第2回）木造住宅耐震講習会 （ふれあい健康館）受講者：33名
11月30日	平成22年度第3期管理建築士講習（あわぎんホール）
12月1日	日事連中四国ブロック協議会（鳥取市）4名
12月13日	出前講座・城東高校
12月21日	徳島県営繕課との意見交換会（事務局会議室）10名

2011年（平成23年）

1月28日	新年例会（ホテル千秋閣）
2月10日	出前講座・小松島高校
2月18日	徳島市との意見交換会（徳島市役所）10名
3月1日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）3名
3月10日	「とくしま木材利用指針」講習会・ 「建築設計等の委託業務報酬基準算定ソフト」説明会 （ホテル千秋閣）受講者 58名
3月11日	東日本大震災（H23.3.11.14時46分発生 マグニチュード9.0）
4月1日	徳島県委託業務・「徳島県建築物耐震相談所」開設（相談員10名）
5月27日	平成23年度第37回通常総会（建設センター）
6月10日	日事連四国ブロック事務局会議（高松市）2名
6月27日	出前講座・穴吹高校
6月29日	平成23年度第1期管理建築士講習（あわぎんホール）
7月6日	日事連四国ブロック協議会（松山市）3名
7月6-7日	日事連中四国ブロック協議会（松山市）3名
8月8日	平成23年度木造住宅耐震講習会（新規） ふれあい健康館 受講者 93名
9月2日	震災復旧のための震災建築物の被災度区分判定基準 および復旧技術指針講習会（アスティ徳島） 全構造編・受講者 69名 木造編・受講者 20名
9月9日	出前講座・中央高校
10月12日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
10月17日	出前講座・川島高校
10月19日	平成23年度木造住宅耐震（更新）講習会 （あわぎんホール）受講者 147名
10月25日	平成23年度木造住宅耐震（更新）講習会（油屋美馬館）受講者 85名
10月28日	10月度定例会（徳島グランヴィリオホテル） 建築材料展、住まいづくり相談会、耐震相談会 （徳島グランヴィリオホテル） 講演会 「生命力ある建築について」講師：長谷川 豪氏
10月31日	出前講座・板野高校
11月1日	平成23年度木造住宅耐震（更新）講習会 （あわぎんホール）受講者 122名
11月3-5日	研修旅行（金沢方面）参加者 42名
11月14日	平成23年度木造住宅耐震（更新）講習会 （阿南市文化会館）受講者 101名
11月24日	「公共建築工事標準仕様書、標準図（平成22年度版）講習会 （ふれあい健康館）受講者 30名
11月25日	出前講座・徳島市立高校
12月2日	設計事務所訪問・㈱西田設計 徳島市立高校生
12月12日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）4名
12月15日	出前講座・鳴門高校
12月20日	平成23年度木造住宅耐震講習会（新規） ふれあい健康館 受講者 71名

徳島県建築士事務所協会の軌跡

2012年（平成24年）

1月27日	新年例会（阿波観光ホテル）
2月16日	徳島県営繕課との意見交換会（事務局会議室）8名
2月18-19日	キャンペーンの開催（ゆめタウン徳島）
2月29日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
3月21日	徳島市との意見交換会（徳島市役所）7名
4月1日	「徳島県建築物耐震相談所」 （社）徳島県建築士事務所協会主催（相談員：8名）
5月25日	平成24年度第38回通常総会（建設センター）
6月28-30日	研修旅行（東北方面）参加者：24名
7月19日	木造住宅耐震講習会（新規）あわぎんホール・受講者：92名
7月27-28日	日事連中四国ブロック協議会（出雲市）5名
9月7日	適合証明技術者業務講習（ふれあい健康館）受講者：28名
9月25日	出前講座・徳島北高校
10月5日	日事連創立50周年記念・第36回建築士事務所全国大会（東京大会）6名
10月16日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名
10月26日	平成24年度10月度定例会（徳島グランヴィリオホテル） 建築材料展、住まいづくり相談会、耐震相談会（徳島グランヴィリオホテル） 建築講演会 近作「木材会館、ホキ美術館、ソニーシティ大崎」で考えたこと 講師：山梨 知彦氏
10月29日	出前講座・川島高校
11月10-11日	キャンペーン（ゆめタウン徳島）
11月16日	耐震対策（天井）に伴う講習会（ホテル千秋閣）受講者：73名
11月21日	出前講座・貞光工業高校
11月29日	木造住宅耐震講習会（新規）あわぎんホール 受講者：55名
12月5日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
12月12日	出前講座・徳島科学技術高校

2013年（平成25年）

1月25日	新年例会（ホテル千秋閣）
2月15日	徳島県営繕課との意見交換会（事務局会議室）10名
3月1日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）2名
3月22日	徳島市との意見交換会（徳島市役所）8名
4月1日	「建築物耐震相談所」（一社）徳島県建築士事務所協会主催（相談員：8名）
5月31日	平成25年度第39回通常総会（建設センター）
7月10-11日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
8月9-11日	第37回建築士事務所全国大会（三重大会）23名
9月10日	出前講座・新野高校
9月24日	「JAAF-MST2013」講習会（ホテル千秋閣）受講者：35名
10月22日	第1回40周年特別委員会（事務局会議室）
10月25日	10月度定例会（シビックセンター） キャンペーン、建築材料展、住まいづくり相談会、耐震相談会（シビックセンター） 講演会「希望をもたらす建築」講師：竹原 義二氏
11月13日	「実務者のための工事監理ガイドラインの運用解説」講習会（ホテル千秋閣）受講者：28名
11月20日	出前講座・貞光工業高校
11月29日	出前講座・徳島市立高校
12月2日	平成25年度木造住宅耐震講習会（あわぎんホール） 受講者：188名
12月4日	「住宅・建築物の省エネルギー基準」講習会（ホテル千秋閣）受講者：61名
12月5日	平成25年度木造住宅耐震講習会（阿南市文化会館） 受講者：76名
12月10日	平成25年度木造住宅耐震講習会（油屋美馬館）受講者：102名
12月11日	出前講座・徳島科学技術高校
12月12日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）4名
12月20日	平成25年度木造住宅耐震講習会（あわぎんホール） 受講者：161名

2014年（平成26年）

1月15日	第2回40周年特別委員会（事務局会議室）
1月24日	新年例会（阿波観光ホテル）
1月30日	徳島県営繕課との意見交換会（事務局会議室）8名
2月6日	「実例に学ぶ建築士事務所のトラブル予防」研修会（ホテル千秋閣）受講者：27名
2月17日	第3回40周年特別委員会（事務局会議室）
3月7日	40周年特別委員会 （広報・渉外委員会、教育・指導委員会、賛助会役員会合同） ホテル千秋閣
3月10日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）3名
3月20日	40周年特別委員会（総務委員会合同）・事務局会議室 徳島市との意見交換会（徳島市役所）10名
3月28日	第4回40周年特別委員会（ホテル千秋閣）
4月1日	「建築物耐震相談所」（一社）徳島県建築士事務所協会 主催（相談員8名）
4月10日	第5回40周年特別委員会（事務局会議室）
4月17日	第1回40周年記念事業担当部会（ホテル千秋閣）
5月27日	第6回40周年特別委員会（事務局会議室）
5月30日	平成26年度第40回通常総会（建設センター）
6月12日	現場見学会、免震体験車試乗会（川島病院新築現場等）
6月16日	第7回40周年特別委員会（事務局会議室）
6月17日	木造住宅耐震講習会（新規）あわぎんホール 受講者：51名
7月7日	第2回40周年記念事業担当部会（ホテル千秋閣） 第8回40周年特別委員会（ホテル千秋閣）
7月22日	第3回40周年記念事業担当部会（ホテル千秋閣） 第9回40周年特別委員会（ホテル千秋閣）
7月23-24日	日事連中四国ブロック協議会（山口市）6名
8月7日	適合証明技術者業務講習（ふれあい健康館）受講者：17名 既存住宅現況検査技術者講習（ふれあい健康館）受講者：14名
8月26日	第10回40周年特別委員会（事務局会議室）
9月29日	第11回40周年特別委員会（事務局会議室）
10月3日	第38回建築士事務所全国大会（東京大会）6名
10月8日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）3名
10月20日	第12回40周年特別委員会（事務局会議室）
10月30日	平成26年度10月定例会（シビックセンター） 建築はおもしろい！研究発表会（シビックセンター） 徳島文理大学 ●「千秋閣の3Dによる復元」 阿南工業高等専門学校 ●「これからの阿南駅前を考える」 ●「新みずの都提案」
	講演会「東京駅丸の内駅舎 保存・復原工事の記録」（シビックセンター）講師：上浪鉄郎氏
10月30-31日	キャンペーン、建築材料展、住まいづくり相談会、耐震相談所（シビックセンター）
10月31日	（一社）徳島県建築士事務所協会創立40周年記念行事開催（ホテルクレメント徳島） ●創立40周年記念特別講演会 「今求められる地域の活性化について」講師：東国原 英夫氏 ●記念式典・祝賀会
12月1日	出前講座・新野高校
12月12日	日事連中四国ブロック協議会（高松市）2名
12月17日	出前講座・徳島科学技術高校

2015年（平成27年）

1月15日	徳島県営繕課との意見交換会（事務局会議室）13名
	木造住宅耐震支援事業について徳島県、建築士会役員と合同会議
1月23日	新年例会（阿波観光ホテル） 出前講座・徳島市立高校
2月9日	木造住宅耐震支援事業について建築士会役員と合同会議
2月16日	産業廃棄物の不法投棄の通報等に関する協定書締結式（県庁知事応接室）5名
3月2日	日事連中四国ブロック協議会（岡山市）3名
3月23日	徳島市との意見交換会（徳島市役所）9名

会長・副会長・役員の変遷

	速水 剛 ●初代会長 [昭和49～56年] ●相談役 [昭和57～平成15年]
	西田 成一 ●副会長 [昭和49～56年] ●会長 [昭和57～62年] ●相談役 [昭和63～平成9年]
	森下 芳雄 ●副会長 [昭和49～62年] ●会長 [昭和63～平成1年] ●相談役 [平成2～12年]
	滝本 勇 ●理事 [昭和49～平成6年] ●副会長 [昭和55～平成1年] ●会長 [平成2～6年]
	西田 友二 ●監事 [昭和49～52年] ●理事 [昭和55～平成7年] ●副会長 [昭和57～平成6年] ●会長 [平成6～7年] ●相談役 [平成8～15年・平成20～21年]
	槇野 清 ●理事 [昭和49～50年・昭和53～平成11年] ●副会長 [平成2～7年] ●会長 [平成8～11年] ●相談役 [平成12年～現在]
	小川 良一 ●理事 [昭和59～平成17年・平成22～23年] ●副会長 [平成8～11年] ●会長 [平成12～17年] ●相談役 [平成18年～現在]
久保 正一	●理事 [昭和49～52年・昭和57～62年]
小川 利治	●理事 [昭和49～60年]

高野 真一	●理事 [昭和49～58年]
森田 益次	●理事 [昭和49～50年・昭和53～平成1年]
富永 理司	●理事 [昭和49～平成1年]
滝川 長俊	●監事 [昭和49～50年]
杉友 誠三	●理事 [昭和51～60年]
杉本 勇	●理事 [昭和51～平成9年] ●副会長 [昭和63～平成9年]
三谷 文夫	●監事 [昭和51～52年]
森岡 三郎	●理事 [昭和53～54年]
川原 茂	●理事 [昭和53～58年]
山本 学	●監事 [昭和53～56年]
樋富 健治	●監事 [昭和53～平成3年]
田中 正信	●理事 [昭和55～平成9年]
釜内 健二	●理事 [昭和55～平成1年・平成20～21年]
原田 勲	●理事 [昭和53～54年・昭和57～平成11年] ●副会長 [平成8～11年] ●監事 [平成12～13年]
西岡 喜一	●監事 [昭和57～62年]
植田 順勇	●理事 [昭和61～平成1年・12～13年]
新開 秀一	●理事 [昭和61～平成3年]
久住 浩史	●理事 [昭和63～平成7年] ●副会長 [平成6～7年]
松根 美幸	●理事 [昭和63～平成13年]
林 栄二郎	●監事 [昭和63～平成1年]
西吉 卓	●理事 [平成2～15年] ●副会長 [平成10～15年] ●監事 [平成16～17年]
森 潤一	●理事 [平成2～13年] ●副会長 [平成12～13年] ●監事 [平成14～15年]

岡田 昌治	●理事 [平成2～5年]
泰地 治美	●理事 [平成2～7年]
	速水 可次 ●理事 [平成2～25年] ●副会長 [平成12～17年] ●会長 [平成18～21年] ●相談役 [平成22年～現在]
	西田 功 ●理事 [平成2年～現在] ●副会長 [平成18～21年] ●会長 [平成22～25年] ●相談役 [平成26年～現在]
姫野 正博	●理事 [平成2～7年]
藤原 俊彦	●理事 [平成2～9年]
山田 徹	●理事 [平成2～11年・平成14～15年]
炭谷 文彦	●監事 [平成2～5年・平成26年～現在] ●理事 [平成6～17年・平成22～25年] ●副会長 [平成14～17年]
富永 泰晴	●理事 [平成4～9年] ●監事 [平成10～11年]
辻 好史	●監事 [平成4～7年] ●理事 [平成8～9年・平成24年～現在]
橋本 巳代治	●監事 [平成6～7年]
岡田 英二郎	●理事 [平成6～7年]
池田 孝秀	●理事 [平成8～11年]
	小西 誠一 ●監事 [平成8～9年] ●理事 [平成10年～現在] ●副会長 [平成18～25年] ●会長 [平成26年～現在]
立花 薫	●理事 [平成8年～現在] ●副会長 [平成26年～現在]

川端 莊一郎	●理事 [平成8～9年]
福井 英吉	●監事 [平成8～9年] ●理事 [平成10年]
福井 郁好	●理事 [平成11～12年]
大塚 研一	●理事 [平成13～15年]
佐々木 久	●理事 [平成8～11年]
福井 一博	●理事 [平成10～19年] ●副会長 [平成16～19年]
開 寛	●理事 [平成10～17年]
佐藤 賢治	●理事 [平成10～23年]
松村 史朗	●理事 [平成10年～現在] ●副会長 [平成20年～現在]
久住 秀志	●理事 [平成10～13年・平成16～17年]
矢野 博司	●理事 [平成10～12年]
森本 桂次	●理事 [平成13～15年] ●監事 [平成22～25年]
林 茂樹	●理事 [平成10～13年]
藤崎 治	●監事 [平成10～11年] ●理事 [平成12～17年]
三谷 真喜夫	●監事 [平成11年]
堀川 誠一	●理事 [平成12年～現在]
岡下 清二	●監事 [平成12～15年]
赤松 泰宏	●理事 [平成12～15年]
平山 晃千	●理事 [平成12～13年]
佐藤 幸好	●理事 [平成14～21年]
榎原 賢治	●理事 [平成14年～現在]
丸山 正弘	●理事 [平成14年～現在]
黒田 清治	●理事 [平成14～15年]

会長・副会長・役員の変遷

坂本 忠	●理事 [平成14-15年]
赤松 泰則	●理事 [平成16-19年]
川田 修	●監事 [平成16-17年] ●理事 [平成18-19年]
山田 雄二	●理事 [平成16-19年]
中野 真弘	●理事 [平成16年-現在]
朝野 佳伸	●理事 [平成16-17年・平成20-21年]
北島 重利	●理事 [平成16-19年]
丹羽 悟	●理事 [平成16年-現在] ●副会長 [平成22年-現在]
上柿 重信	●理事 [平成18年-現在]
手城 司	●理事 [平成18-21年] ●監事 [平成26年-現在]
坂東 賢一	●理事 [平成18年-現在]
藤川 隆幸	●理事 [平成18年-現在]
宮本 昌司	●理事 [平成18年-現在]
井川 清	●監事 [平成18-22年]
高源 勇	●監事 [平成18-19年]
黒崎 仁資	●理事 [平成20年-現在]
北島 大介	●理事 [平成20年-現在]
青木 忠雄	●理事 [平成20年-現在]
藤原 賢治	●監事 [平成20-21年] ●理事 [平成22-23年]
佐藤 博司	●監事 [平成22-23年]
樫谷 一俊	●監事 [平成22-23年]
平尾 建夫	●理事 [平成22-23年]
佐藤 新一	●理事 [平成22-現在]

島谷 速敏	●理事 [平成22-25年]
笠井 義文	●理事 [平成24年-現在]
森 宏文	●理事 [平成24-25年]
時本 昌典	●理事 [平成24年-現在]
竹内 良和	●監事 [平成24-25年]
内野 輝明	●理事 [平成26年-現在]
北島 誠祐	●理事 [平成26年-現在]
高田 正樹	●理事 [平成26年-現在]
日野 利治	●理事 [平成26年-現在]
井上 明	●事務局長 [昭和49-51年]
津田 工	●事務局長 [昭和52-63年]
山下 浩	●事務局長 [平成1-4年]
藤本 敏男	●事務局長 [平成5-11年] ●監事 [平成13-17年] ●相談役 [平成18-19年]
仁木 道夫	●事務局長 [平成12-13年]
橋本 修一	●事務局長 [平成14-15年]
三好 正和	●事務局長 [平成22年]
小南 充	●事務局長 [平成25年-現在]

賛助会 会長・副会長・役員の変遷

	柴田 秋男 徳島大三工業 (株) ●会長 [昭和51-62年] ●相談役 [昭和63年-平成9年]
	船越 敏夫 (株)船越商店 ●副会長 [昭和61-62年] ●会長 [昭和63-平成3年] ●相談役 [平成4-22年]
	三谷 真喜夫 (有)ミツフ建産 ●副会長 [昭和57-平成3年] ●会長 [平成4-7年] ●相談役 [平成8-12年]
	木内 誠一 (株)キノウチ ●副会長 [昭和63-平成7年] ●会長 [平成8-11年] ●相談役 [平成12年-現在]
	井川 清 徳島ゴーレックス工業 (株) ●副会長 [平成4-11年] ●会長 [平成12-17年] ●相談役 [平成18-22年]
仁田 忠臣 (株)仁田工業所 ●副会長 [昭和51-52年]	
尾形 智章 (有)尾形商店 ●副会長 [昭和51-56年]	
元木 常男 (株)元木隆造商店 ●副会長 [昭和52-54年]	
中山 満 中山装備 (株) ●副会長 [昭和53-56年]	
港 忠徳 港産業 (株) ●副会長 [昭和55年]	
港 武夫 港水熱 (株) ●副会長 [昭和56年]	
丹羽 章 うずしお商事 (株) ●副会長 [昭和57-62年]	
丸宮 晃 (株)船越商店 ●副会長 [昭和57-60年]	
阿部 久 徳島建材 (株) ●副会長 [昭和63-平成5年]	
森 仁 (有)森サッシ ●副会長 [平成6-13年]	

	美馬 秀夫 美馬商事 (株) ●副会長 [平成8-17年] ●会長 [平成18-25年] ●相談役 [平成26年-現在]
梶川 寿幸 日本フネン (株) ●副会長 [平成12-18年]	
由村 和之 立川ブラインド工業 (株) ●副会長 [平成14-18年]	
辻 和幸 (株)シンコール徳島営業所 ●副会長 [平成18-19年]	
樋水 徹 (株)住ゴム産業四国徳島営業所 ●副会長 [平成19-25年]	
矢田 和美 ニッケン工販 (株) ●副会長 [平成19-22年]	
	富登 篤弘 虎建材 (株) ●副会長 [平成20-25年] ●会長 [平成26年-現在]
野田 久之 フジスレート (株) ●副会長 [平成24-25年]	
小濱 利郎 大利木材 (株) ●副会長 [平成26年-現在]	
近藤 力 ALC販売 (株) ●副会長 [平成26年-現在]	
石川 雅一 三見産業 (株) ●副会長 [平成26年-現在]	

一般社団法人 徳島県建築士事務所協会
正会員一覧

平成27年1月1日現在

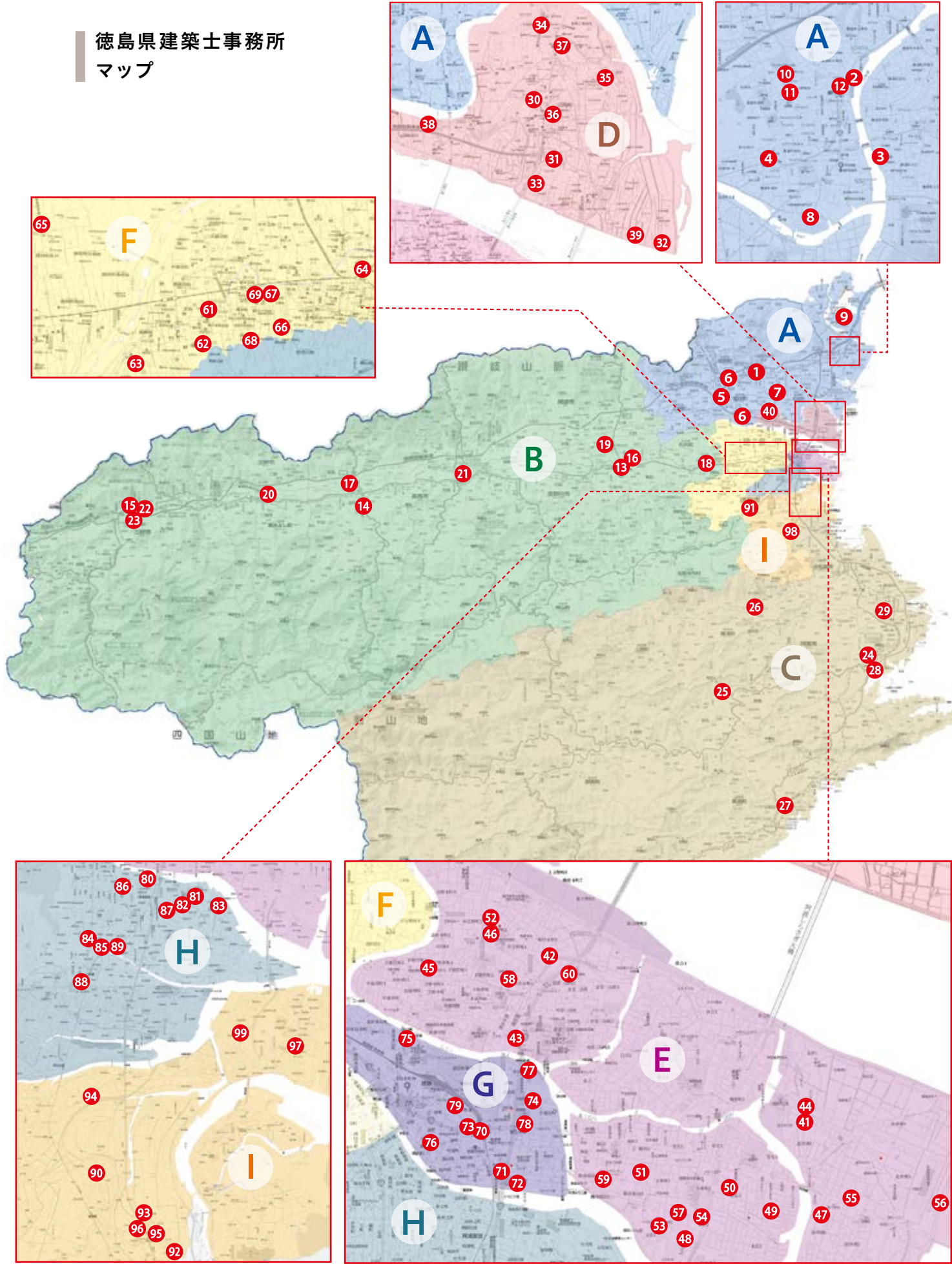
マップ エリア	マップ No.	会社名	代表者名	所在地	TEL
A	1	AOKI一級建築設計事務所	青木 忠雄	〒771-1240 板野郡藍住町乙瀬字乾84	TEL: (088) 692-0121
	2	井上建設 (株)一級建築士事務所	井上 一弘	〒772-0012 鳴門市撫養町小桑島字前組16-12	TEL: (088) 686-5145
	3	(株)亀井組一級建築士事務所	朝野 佳伸	〒772-0017 鳴門市撫養町立岩字七枚114	TEL: (088) 685-4178
	4	黒崎設計室	黒崎 仁資	〒772-0003 鳴門市撫養町南浜字権現28-1	TEL: (088) 686-4536
	5	(株)新宮建築事務所	新宮 仁	〒779-0104 板野郡板野町吹田字神木12-5	TEL: (088) 672-0221
	6	大東興業 (株)一級建築士事務所藍住営業所	松浦 恵	〒771-1212 板野郡藍住町徳命字前須東164-1	TEL: (088) 692-5555
	7	(株)谷崎建設・設計事務所	谷崎 耕造	〒771-1272 板野郡藍住町勝瑞字成長141-23	TEL: (088) 641-1771
	8	丹羽建築事務所	丹羽 悟	〒772-0003 鳴門市撫養町南浜字東浜11-18	TEL: (088) 685-0528
	9	松田公彦スタジオ	松田 公彦	〒772-0052 鳴門市鳴門町三ツ石字八軒浜84-1	TEL: (088) 683-6661
	10	(株)松村建築計画研究所	松村 史朗	〒772-0002 鳴門市撫養町斎田字北浜154	TEL: (088) 686-6491
	11	みなみ建築アトリエ	南 佳孝	〒772-0002 鳴門市撫養町斎田字北浜85-4第30 宮脇ビル201号	TEL: (088) 678-5858
	12	吉成建設 (株)一級建築設計事務所	吉成 義数	〒772-0012 鳴門市撫養町小桑島字前浜259-1	TEL: (088) 685-3101
B	13	(株)岡島建築事務所	野口 基	〒776-0010 吉野川市鴨島町鴨島161-5	TEL: (0883) 24-7925
	14	(株)上設計	上柿 重信	〒779-4104 美馬郡つるぎ町貞光字町45番地7	TEL: (0883) 62-3955
	15	川人一級建築設計事務所	川人 邦彦	〒778-0002 三好市池田町マチ2174-9	TEL: (0883) 72-6686
	16	岸田建築設計	岸田 徳明	〒776-0001 吉野川市鴨島町鴨島416	TEL: (0883) 22-9178
	17	(株)北岡組一級建築士事務所	北岡 眞文	〒771-2106 美馬市美馬町妙見67-2	TEL: (0883) 63-3155
	18	(株)木乃山工務店	笠松 恒夫	〒779-3223 名西郡石井町高川原字高川原975	TEL: (088) 674-8050
	19	佐々木建設 (株)一級建築士事務所	白川 靖雄	〒771-1494 阿波市吉野町柿原字原167	TEL: (088) 696-3121
	20	(株)スバル設計	藤川 隆幸	〒771-2305 三好市三野町太刀野5-6	TEL: (0883) 77-3466
	21	(株)マックス設計	田淵 宏樹	〒779-3610 美馬市脇町大字脇町705-2	TEL: (0883) 52-0574
	22	丸浦工業 (株)一級建築士事務所	丸浦 世造	〒778-0004 三好市池田町シンマチ1466	TEL: (0883) 72-1180
	23	(株)山田設計	山田 徹	〒778-0004 三好市池田町シンマチ1533-1	TEL: (0883) 72-0697
C	24	SA設計一級建築士事務所	森 宏文	〒774-1401 阿南市内原町長谷32番1	TEL: (0884) 49-1511
	25	東和建築士事務所	青木 香恵子	〒771-5208 那賀郡那賀町仁宇字王子前141-3	TEL: (0884) 62-1207
	26	(株)時本製材所一級建築士事務所	時本 昌典	〒771-4302 勝浦郡勝浦町大字中角字長田48-5	TEL: (0885) 42-3061
	27	(株)野田木内一級建築設計事務所	野田 史	〒779-2306 海部郡美波町西河内字大久保72番4	TEL: (0884) 77-2039
	28	丸山正弘建築設計室	丸山 正弘	〒774-0023 阿南市橋町東中浜138	TEL: (0884) 27-1061
	29	(株)八千代組	森本 則明	〒774-0030 阿南市富岡町内町211	TEL: (0884) 22-0367
D	30	Ai建築工房	粟飯原 功	〒771-0141 徳島市川内町竹須賀99-1	TEL: (088) 665-9808
	31	大西事務所	大西 康雄	〒771-0142 徳島市川内町沖島71-3	TEL: (088) 665-3464
	32	(株)川建設計	川端 壮一郎	〒771-0103 徳島市川内町小松東75-8	TEL: (088) 665-9082
	33	(有)真建築都市研究室	中野 真弘	〒771-0117 徳島市川内町鶴島115- 3 (黄金ビル3F)	TEL: (088) 665-6805
	34	設計集団・匠建築設計事務所	鈴江 徹	〒771-0130 徳島市川内町加賀須野1069-23	TEL: (088) 665-1500
	35	中村建築構造設計	中村 康一	〒771-0134 徳島市川内町平石住吉209-5 213号	TEL: (088) 665-3886
	36	坂東建築設計事務所	坂東 賢一	〒771-0136 徳島市川内町平石古田168	TEL: (088) 665-0018
	37	(株)平島弘之+TEAM28	平島 弘之	〒771-0132 徳島市川内町平石夷野77-2	TEL: (088) 666-3328
	38	(株)横野一級建築設計事務所	横野 清	〒771-0144 徳島市川内町榎瀬821	TEL: (088) 665-0644
	39	(株)moon at.	伊月 善彦	〒771-0103 徳島市川内町小松東75-15	TEL: (088) 677-3001
	40	四電技術コンサルタント一級建築士徳島事務所	別枝 修	〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28	TEL: (088) 683-3833

マップ エリア	マップ No.	会社名	代表者名	所在地	TEL
E	41	井川設計工房 (株)一級建築士事務所	井川 実	〒770-0872 徳島市北沖洲1丁目9-24	TEL: (088) 664-2170
	42	海部建築設計事務所	海部 徹夫	〒770-0816 徳島市助任本町2丁目42	TEL: (088) 626-3938
	43	(有)笠井建築設計コンサルタント	笠井 義文	〒770-0814 徳島市南常三島町1-2-5 (里見ビル203)	TEL: (088) 653-8054
	44	(株)北島コーポレーション一級建築士事務所	北島 大介	〒770-0871 徳島市金沢町1丁目2-3	TEL: (088) 664-2141
	45	クロダ建築構造設計室	黒田 博己	〒770-0802 徳島市吉野本町4丁目3 (4F -B)	TEL: (088) 623-8747
	46	後藤建築事務所	後藤 和典	〒770-0804 徳島市中吉野町2丁目36-6	TEL: (088) 652-2453
	47	坂口建築設計室	坂口 敏司	〒770-0874 徳島市南沖洲1丁目5 番33-2号	TEL: (088) 664-0878
	48	(株)象企画	松本 好隆	〒770-0865 徳島市南末広町2-8-17	TEL: (088) 611-8811
	49	高田正樹建築設計室	高田 正樹	〒770-0866 徳島市末広4丁目4-9-101	TEL: (088) 677-8816
	50	(株)剛建築事務所	速水 可次	〒770-0866 徳島市末広3丁目3-3	TEL: (088) 622-0883
	51	(株)橋建築事務所	浜岡 孝幸	〒770-0868 徳島市福島2丁目5-9	TEL: (088) 625-7878
	52	立花構造設計事務所	立花 薫	〒770-0804 徳島市中吉野町2丁目37-1 Office-G	TEL: (088) 623-9064
F	53	(株)司工務店一級建築士事務所	森本 桂次	〒770-0866 徳島市末広1丁目3-24	TEL: (088) 622-5115
	54	(有)堤建築設計研究室	堤 育二	〒770-0866 徳島市末広2丁目1-110	TEL: (088) 625-0203
	55	手城建設 (株)一級建築士事務所	手城 司	〒770-0872 徳島市北沖洲2丁目3-44	TEL: (088) 664-0055
	56	(株)徳島総合コンサルタント一級建築士事務所	山田 昇	〒770-0872 徳島市北沖洲4丁目6 番62号	TEL: (088) 664-8031
	57	(株)フジタ設計	藤田 清人	〒770-0866 徳島市安宅町二丁目3 番20号	TEL: (088) 635-4940
	58	美土利建設工業 (株)一級建築士事務所	上田 美治	〒770-0805 徳島市下助任町1丁目4	TEL: (088) 622-2507
	59	(株)宮建築設計	宮本 博	〒770-0868 徳島市福島1丁目5-6	TEL: (088) 625-5505
	60	(株)渡辺企画設計	渡邊 速	〒770-0812 徳島市北常三島町2-37 (第3板東ビル3-8)	TEL: (088) 626-5785
	61	(株)エーシーイ設計	佐藤 新一	〒770-0044 徳島市庄町一丁目6-2	TEL: (088) 632-1103
	62	佐藤建築設計事務所	佐藤 博司	〒770-0045 徳島市南庄町3丁目45-4	TEL: (088) 632-5557
	63	(有)信設計一級建築士事務所	木内 浩信	〒770-0047 徳島市名東町1丁目406-5	TEL: (088) 631-7027
	64	全農西日本一級建築士事務所徳島管理センター	成清 一臣	〒770-8537 徳島市北佐古一番町5-12	TEL: (088) 634-2527
G	65	創和建築設計	鎌田 好康	〒779-3106 徳島市国府町花園76-3	TEL: (088) 642-5062
	66	(株)辻工務店一級建築士事務所	辻 好史	〒770-0037 徳島市南佐古七番町8-8	TEL: (088) 622-2348
	67	(株)姫野組一級建築士事務所	日野 利治	〒770-0028 徳島市佐古八番町5-7	TEL: (088) 623-3211
	68	藤崎建設 (株)一級建築士事務所	藤崎 吉正	〒770-0042 徳島市南蔵本町2丁目7	TEL: (088) 631-2050
	69	宮本構造設計	宮本 昌司	〒770-0028 徳島市佐古八番町6-10	TEL: (088) 678-5091
	70	(株)岡田組一級建築士事務所	岡田 英二郎	〒770-0847 徳島市幸町1丁目47-3	TEL: (088) 622-5185
	71	(株)オーケーエー	岡 明彦	〒770-0856 徳島市中洲町2丁目23番地2	TEL: (088) 655-8211
	72	(株)北島建設一級建築士事務所	北島 誠祐	〒770-0856 徳島市中洲町1丁目14	TEL: (088) 623-5811
	73	(有)佐藤建築企画設計	佐藤 幸好	〒770-0847 徳島市幸町1丁目43	TEL: (088) 625-1759
	74	炭谷建築設計事務所	炭谷 文彦	〒770-0853 徳島市中徳島町2丁目38	TEL: (088) 653-3437
	75	(有)卓建築事務所	西吉 卓	〒770-0851 徳島市徳島町城内6-22	TEL: (088) 626-2186
	76	(有)竹内建築構造事務所	竹内 良和	〒770-0844 徳島市中通町2丁目17	TEL: (088) 623-3630
	77	(株)野々瀬建築都市設計事務所	野々瀬 徹	〒770-0853 徳島市中徳島町2丁目102	TEL: (088) 622-7711
	78	堀川建築構造設計事務所	堀川 誠一	〒770-0854 徳島市徳島本町2丁目7 (高橋ビル1F)	TEL: (088) 622-6213
	79	四電ビジネス (株)徳島支店	福壽 芳久	〒770-0832 徳島市寺島本町東2丁目29	TEL: (088) 622-9751

一般社団法人 徳島県建築士事務所協会
正会員一覧

マップ エリア	マップ No.	会社名	代表者名	所在地	TEL
H	80	赤松土建(株)一級建築士事務所	赤松 泰則	〒770-0931 徳島市富田浜3丁目13	TEL: (088) 622-9101
	81	(有)アキー一級建築士事務所	佐川 晃	〒770-0942 徳島市昭和町3丁目11	TEL: (088) 622-6901
	82	(株)阿波設計事務所四国支店	大久保 敬嗣	〒770-0942 徳島市昭和町2丁目86-1	TEL: (088) 655-8808
	83	(有)内野設計	内野 輝明	〒770-0941 徳島市万代町5丁目71	TEL: (088) 626-9567
	84	小川良一建築事務所	小川 良一	〒770-0928 徳島市二軒屋町2-26 (小川ビル3F)	TEL: (088) 653-3327
	85	(株)島谷建設一級建築士事務所	島谷 速敏	〒770-0937 徳島市富田橋7丁目17	TEL: (088) 623-2131
	86	(株)滝本建築設計事務所	小西 誠一	〒770-0935 徳島市伊月町1丁目37	TEL: (088) 625-2222
	87	(株)西田設計	西田 功	〒770-0943 徳島市中昭和町2丁目23-2	TEL: (088) 654-7766
	88	(株)林建築事務所	林 茂樹	〒770-8063 徳島市南二軒屋町2丁目3-3-301号	TEL: (088) 654-0359
	89	林建築設計室	林 正敏	〒770-0937 徳島市富田橋7丁目32-5	TEL: (088) 652-2156
I	90	鳳建築設計事務所	福井 秀樹	〒770-8024 徳島市西須賀町東開38	TEL: (088) 669-2711
	91	大家設計一級建築士事務所	大家 淳三郎	〒770-8041 徳島市上八万町西山1215 (しらさぎ台団地)	TEL: (088) 644-3956
	92	岡下建設(株)一級建築士事務所	岡下 清一郎	〒770-8022 徳島市大松町上ノ口47-1	TEL: (088) 669-6211
	93	(有)公建築設計事務所	橋本 公義	〒770-8022 徳島市大松町上西奥78-12	TEL: (088) 669-4005
	94	(株)坂本工務店設計部	坂本 忠	〒770-8070 徳島市八万町犬山57-1	TEL: (088) 669-1000
	95	平山建設(株)一級建築士事務所	平山 洋介	〒770-8022 徳島市大松町榎原外77-10	TEL: (088) 669-2727
	96	(有)開建築設計事務所	開 寛	〒770-8022 徳島市大松町榎原外48-2	TEL: (088) 669-2760
	97	松根一級建築士事務所	松根 美幸	〒770-8003 徳島市津田本町4丁目3-8-2	TEL: (088) 662-2844
	98	宮本設計一級建築士事務所	宮本 栄司	〒771-4261 徳島市丈六町西内33-1	TEL: (088) 645-0758
	99	(有)館建築設計事務所	榎原 賢治	〒770-8006 徳島市新浜町3-1-17	TEL: (088) 663-3877

徳島県建築士事務所
マップ



賛助会員一覧

平成27年1月1日現在

会社名	代表者名	所在地	TEL	FAX
アーキヤマデ(株)神戸営業所	岡田 仁志	〒651-0096 兵庫県神戸市中央区雲井通4-2-2 マークラー神戸ビル	(078) 200-6081	(078) 200-6082
アイジー工業(株)大阪営業所	郡司 和彦	〒562-0036 大阪府箕面市船場西2-2-1-6F	(072) 749-3188	(072) 749-3199
朝日スチール工業(株)	中山 保博	〒760-8529 高松市花園町1-2-29	(087) 835-8730	(087) 835-8720
(株)アムロン徳島支店	曾我部 誠	〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目21	(088) 664-6422	(088) 664-6425
(株)今岡金物店	今岡 良子	〒773-0003 小松島市松島町4-28	(0885) 32-2177	(0885) 32-1335
A L C販売(株)	山本 達雄	〒771-1153 徳島市応神町吉成字長田119-1	(088) 641-2565	(088) 641-2718
エスケー化研(株)高松営業所	瀬戸 博之	〒761-8073 高松市太田下町2585-3	(087) 865-5411	(087) 866-3014
(株)エレホン・技研	一柳 峰行	〒781-0270 高知県高知市長浜5226-13	(088) 805-2332	(088) 841-2322
(株)江原製作所	香西 俊彦	〒779-3743 美馬市脇町字東赤谷名197	(0883) 52-3255	(0883) 53-0009
(株)エステック四国営業所	北村 哲也	〒780-8074 高知市朝倉横町26-16	(088) 843-1688	(088) 843-3366
(株)オオタ	太田 憲史	〒770-8008 徳島市西新浜町2丁目22番地	(088) 663-3131	(088) 663-3334
(有)沖津建材	沖津 孝彦	〒761-1703 高松市香川町浅野2947-14	(087) 888-1339	(087) 888-1349
(株)カスコ	柏原 博司	〒770-0856 徳島市中洲町2丁目21-1	(088) 625-2151	(088) 625-2337
元旦ビューティ工業(株)四国営業所	井上 真一	〒790-0961 愛媛県松山市日の出町7-8 ミツヤサンライズ7F	(089) 947-7818	(089) 947-7646
岩水開発(株)四国営業所	吉成 公男	〒771-0112 徳島市川内町富吉55-74	(088) 666-3090	(088) 666-3091
(株)キノウチ	木内 崇	〒770-0873 徳島市東沖洲1丁目3-1	(088) 664-6789	(088) 664-6788
(株)北島製作所	北島 精一	〒770-8012 徳島市大原町千代ケ丸104-1	(088) 662-1282	(088) 662-1267
喜多機械産業(株)	仲田 優晴	〒770-0044 徳島市庄町3丁目16番地	(088) 631-9266	(088) 633-6522
(株)ゲンボク	岡田 幸助	〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目3	(088) 653-0106	(088) 652-8321
(株)金剛	村上 利郎	〒771-0134 徳島市川内町平石住吉189番1	(088) 637-1177	(088) 637-1178
(株)見誠工業	大松 暉代	〒770-0932 徳島市仲之町3丁目41番地1	(088) 625-7112	(088) 625-7499
(株)コンステック高松営業所	河上 貴士	〒760-0068 高松市松島町1-13-14	(087) 835-4421	(087) 835-4480
小松ウオール工業(株)四国支店高松営業所	近藤 嘉晴	〒760-0078 高松市今里町2丁目12-7	(087) 834-6011	(087) 834-6012
(株)こんどう	近藤 好史	〒770-8056 徳島市問屋町75番地	(088) 622-3115	(088) 623-8056
コマニー(株)四国営業所	井上 直樹	〒761-8064 高松市上之町1-9-28	(087) 865-5226	(087) 865-5227
三協商事(株)	須見 篤志	〒770-8518 徳島市万代町5丁目8番地	(088) 653-5131	(088) 656-5340
(有)斎藤防水工業	島田 健也	〒770-0801 徳島市吉野本町6丁目9番地	(088) 622-2931	(088) 653-4259
三晃産業(株)	石川 雅一	〒771-0138 徳島市川内町平石流通団地29	(088) 665-3400	(088) 665-5580
三和シャッター工業(株)徳島営業所	青木 秀隆	〒771-0104 徳島市川内町小松西72	(088) 665-3225	(088) 665-3228
三洋工業(株)高松営業所	多田 和正	〒760-0065 高松市朝日町5丁目4-33	(087) 811-3447	(087) 811-3453
三協立山(株)三協アルミ社	板谷 豊一	〒761-0301 高松市林町2551-10	(087) 802-5100	(087) 869-8722
(株)サンゲツ四国営業所	高橋 洋光	〒761-8075 高松市多肥下町1507-14	(087) 867-5110	(087) 867-5140
三協テック(株)四国 徳島支店	秋元 信夫	〒771-1210 板野郡藍住町徳命字小塚東71-1	(088) 693-2233	(088) 693-2888
(株)サムシング四国	小泉 啓典	〒761-8084 高松市一宮町255-1	(087) 813-6459	(087) 813-5459
(株)島本製作所	島本 謙次	〒771-0212 板野郡松茂町中喜来字福有開拓308-17	(088) 699-4125	(088) 699-4129
シントク(株)	吉田 喜充	〒770-0872 徳島市北沖洲3丁目8番11号	(088) 664-1481	(088) 664-3488
(株)シンコール徳島営業所	門田 成喜	〒771-1151 徳島市応神町古川字日ノ上15-4	(088) 665-7505	(088) 665-7510
四国化成工業(株)四国営業部	三好 秀信	〒764-0017 香川県仲多郡多度津町西港町42番地	(0877) 58-5211	(0877) 58-5411
ジャパンパイル(株)四国支店	西川 仁	〒761-8071 高松市伏石町2152-4 クレストコート K2	(087) 869-2284	(087) 869-0744
四国電力(株)徳島支店営業部	堤 恒敏	〒770-8555 徳島市寺島本町東2丁目29	(088) 656-4571	(088) 656-9971
シンコユニ(株)	福本 剛	〒761-2102 香川県綾歌郡綾川町千疋4343	(087) 877-1000	(087) 877-1200
(有)ジャルテック	鉾村 幸人	〒773-0001 小松島市小松島町字馬場の本12-3	(0885) 34-0928	(0885) 34-0927
(株)四国日立	有木 美雄	〒770-0005 徳島市南矢三町2丁目6-11	(088) 632-0101	(088) 632-6624
(株)住ゴム産業四国支店徳島営業所	樋水 徹	〒771-1151 徳島市応神町古川戎子野137-11	(088) 665-7033	(088) 665-7035

会社名	代表者名	所在地	TEL	FAX
(株)スタン	近藤 紳一郎	〒771-0138 徳島市川内町平石流通団地21番地	(088) 665-0700	(088) 665-5375
住ベシート防水(株)大阪支店西日本営業部	青木 秀之	〒661-0011 兵庫県尼崎市東塚口町2-3-47	(06) 6429-7136	(06) 6429-7233
積水化学工業(株)	田中 康雄	〒761-0301 高松市林町1509番地	(087) 815-3585	(087) 815-3586
(株)創建	西上 精一	〒771-0126 徳島市川内町上別宮東18-1	(088) 665-3004	(088) 665-6575
(株)総合資格 徳島校	青山 功	〒770-0835 徳島市藍場町1丁目5番地第一生命ビル5F	(088) 657-7361	(088) 657-0613
(株)大建	小井 克之	〒771-2501 三好郡東みよし町昼間521	(0883) 79-2375	(0883) 79-3596
大同サッシ工業(株)	菅澤 吉秋	〒770-0005 徳島市南矢三町1丁目10番15号	(088) 632-2722	(088) 632-8304
大建工業(株)徳島営業所	山根 宏史	〒770-0847 徳島市幸町2丁目19(妙見ビル2F)	(088) 622-6261	(088) 622-6269
タカラスタンダード(株)徳島営業所	田中 宗晴	〒770-0804 徳島市中吉野町4丁目5番1号	(088) 632-2770	(088) 632-2771
(株)ダイキアクシス徳島営業所	嘉村 明彦	〒770-0862 徳島市城東町一丁目2番48号	(088) 626-1128	(088) 626-1117
大利木材(株)	小濱 孝彦	〒770-8001 徳島市津田海岸町7-68	(088) 662-5505	(088) 663-4050
(株)タイシン	庄司 宗之助	〒781-5106 高知市介良乙278-1 日星商事ビル2F	(088) 878-4771	(088) 878-4772
田島ルーフィング(株)大阪支店	島 武之	〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5	(06) 6443-0431	(06) 6445-0486
(有)中條防水工業所	中條 優	〒770-0866 徳島市末広5丁目4-25	(088) 623-2564	(088) 624-9008
(株)中岸商店	中岸 敏昭	〒772-0003 鳴門市撫養町南浜字東浜654	(088) 686-2115	(088) 684-3011
中外商工(株)高松営業所	金川 秀春	〒760-0078 高松市今里町2丁目19-24	(087) 833-8029	(087) 835-1851
虎建材(株)	富登 篤弘	〒770-0942 徳島市昭和町8丁目87の84	(088) 625-3461	(088) 625-6353
徳島大三工業(株)	横山 進	〒770-0006 徳島市北矢三町1丁目2番61号	(088) 631-4161	(088) 632-8431
徳島県生コンクリート協同組合	吉住 道	〒771-0143 徳島市川内町中島97-1	(088) 665-5631	(088) 665-5192
東リ(株)高松営業所	八木 洋	〒760-0078 高松市伏石町2148-1	(087) 815-1150	(087) 815-1160
TOTO(株)徳島営業所	岡島 靖幸	〒771-0141 徳島市川内町竹須賀175-1	(088) 665-9050	(088) 665-9811
(有)徳島自動ドア	大藤 幸三	〒770-8081 徳島市八万町二丈36番地13	(088) 668-2607	(088) 668-4696
(株)ドアーテック高松営業所	原 進	〒761-0312 高松市東山崎町250-1	(087) 840-7698	(087) 847-9746
(株)中山源太郎商店	中山 都雄	〒770-8001 徳島市津田海岸町2-8	(088) 662-3800	(088) 663-2838
中本造林(株)四国営業所	糸谷 吉行	〒771-1506 阿波市土成町土成字美緑43	(088) 695-3737	(088) 695-3738
(株)ナカバリコート	岡本 裕二	〒779-2305 海部郡美波町奥河内字奥潟72	(0884) 74-7690	(0884) 77-1258
日本フネン(株)	久米 徳男	〒779-3394 吉野川市川島町三ツ島新田179	(0883) 25-4660	(0883) 25-5115
ニホン・フラッシュ(株)	高橋 栄二	〒773-8504 小松島市横須町5-26	(0885) 32-3431	(0885) 35-0001
日本ペイント販売(株)四国営業所	植 修治	〒769-0221 香川県綾歌郡宇多津町4001-66	(0877) 56-2345	(0877) 56-2355
ニチアス(株)岡山営業係高松事務所	宮崎 勝	〒761-0301 高松市木太町2496-5	(087) 897-3033	(087) 897-3034
日本スピンドル製造(株)建材事業部	野口 重男	〒661-8510 兵庫県尼崎市潮江4-2-30	(06) 6499-5830	(06) 6499-5833
日本ERI(株)高松支店	宮武 茂基	〒760-0017 高松市番町二丁目17番15号第二讃機ビル3階	(087) 811-1877	(087) 823-0056
(株)秦商事	秦 幸助	〒770-8001 徳島市津田海岸町7番7号	(088) 663-2010	(088) 663-2011
パナソニック(株)	高橋 保誠	〒770-0865 徳島市南末広町4丁目88-1	(088) 625-3060	(088) 625-3076
(株)日立ビルシステム四国支社	田尻 英孝	〒760-0023 高松市寿町1丁目3番2号(高松第一生命ビルディング)	(087) 822-1321	(087) 822-1231
フジスレート(株)	馬淵 克己	〒770-8546 徳島市佐古六番町11-8	(088) 625-0247	(088) 625-0253
文化シャッター(株)	宮本 勝夫	〒770-0804 徳島市中吉野町1丁目8-3	(088) 626-1303	(088) 626-1379
富士建設工業(有)一級建築士事務所	小林 佳司	〒779-3120 徳島市国府町南岩延171番3	(088) 642-1477	(088) 642-2387
フジワラ化学(株)四国営業所	古田 真二	〒799-1342 愛媛県西条市大新田94番地	(0898) 64-1181	(0898) 64-6480
(株)フタバ	岸田 隆男	〒776-0001 吉野川市鴨島町牛島2970-32	(0883) 26-1181	(0883) 24-1081
堀部産業(株)	堀部 耕一	〒771-0143 徳島市川内町中島92番1	(088) 665-2121	(088) 665-7373
(株)マルショウ	鈴江 健司	〒770-0944 徳島市南昭和町1丁目46-1 センチュリープラザホテル2階	(088) 655-2866	(088) 655-0833
(株)三井	三井 克造	〒770-8540 徳島市北佐古一番町4番27号	(088) 633-3002	(088) 633-2666
美馬商事(株)	美馬 秀夫	〒771-0138 徳島市川内町平石流通団地65番地	(088) 665-4545	(088) 665-2002

会社名	代表者名	所在地	TEL	FAX
三谷商事（株）四国支店徳島営業所	伊阪 友哉	〒770-8053 徳島市沖浜東3丁目46（Jビル東館3F）	（088）622-2238	（088）622-2243
三木忠電機（株）	三木 忠憲	〒770-0866 徳島市末広5丁目3-36	（088）622-7851	（088）654-3613
宮地電機（株）	宮地 貴嗣	〒770-0852 徳島市徳島町3-8-1	（088）622-2180	（088）626-2279
三菱電機ビルテクノサービス（株）	木村 雅範	〒760-8654 高松市番町1丁目6-1（住友生命高松ビル内）	（087）811-1910	（087）811-1912
宮崎商事（株）	宮崎 一成	〒770-8079 徳島市八万町大坪20番地の5	（088）668-0811	（088）668-4934
（株）メイボックジャパン	川本 邦生	〒770-0873 徳島市東沖洲二丁目16番地4	（088）624-7718	（088）624-7832
（有）森サッシ	森 康之	〒770-8083 徳島市八万町法花35-2	（088）669-2624	（088）669-3016
矢崎総業四国販売（株）	古賀 秀雄	〒760-0080 高松市木太町1925-1	（087）833-3333	（087）831-1673
矢作建設工業（株）四国出張所	逸見 勇	〒761-0301 高松市林町2032-2	（087）869-1745	（087）869-1746
（株）淀川製鋼所高松統括営業所	渡邊 真一路	〒760-0018 高松市天神前10-5（高松セントラルスカイビル5F）	（087）834-3611	（087）831-1685
吉野川ヒューム工業（株）	島谷 速敏	〒770-0937 徳島市富田橋7丁目17	（088）623-2135	（088）623-2136
（有）四桧	小島 一和	〒770-8070 徳島市八万町大野135-2 ロックバレー A-101	（088）669-1811	（088）677-8611
（株）LIXIL	楠田 芳樹	〒770-0872 徳島市北沖洲3丁目2-53	（088）664-5501	（088）664-5502
ロンシール工業（株）広島営業所	小波 誠	〒732-0827 広島市南区稲荷町2-16 広島稲荷町第一生命ビルディング4階	（082）506-2500	（082）506-2514
YKKAP（株）	正木 潤	〒770-0011 徳島市北佐古一番町3番3 シティ・スター北佐古1F	（088）632-1515	（088）632-6294
（株）ワイ・ピー・ケイ工業	山田 茂人	〒779-3128 徳島市国府町延命385番地1	（088）642-1332	（088）642-1340

40周年特別委員会組織表

40周年記念誌発刊に際して

40周年特別委員会
委員長 青木 忠雄



この度、事務所協会40周年記念事業に際しましてホテルクレメント徳島で開催致しました「東国原 英夫氏」の記念講演会に多数ご参集頂きまして誠にありがとう御座いました。当日の記念式典も各界のご来賓、ご招待者の皆様のご臨席を賜り盛大に催す事が出来ました。重ねて御礼を申し上げます。

特別委員会が結成されて1年余りになります。この間に各部会を設け各イベントの方向付けをしてまいりました。今までの周年事業とは違い社団法人から一般社団法人へと移行された建築士事務所協会が初めて行う事業となります。

公益事業を本分として皆様のお役に立てる建築士事務所協会である為、今までにない色々なキャンペーンも開催致しました。シビックセンターに於いて10月30・31日に開催されたキャンペーンと建材展には一般の方々をはじめ学生の皆さんが多数ご来場して顶けました。一般の方々や建築を目指す若い方々に我々建築士事務所の存在を知って頂き、仕事の内容もご理解頂ければと願っております。記念誌の発刊にあたりまして建築士事務所協会のあゆみをはじめこれからの社会貢献活動や後継者の育成を目指す事業を展開して行きたいと考え内容を充実させておりますので是非ご覧頂ければと思っています。

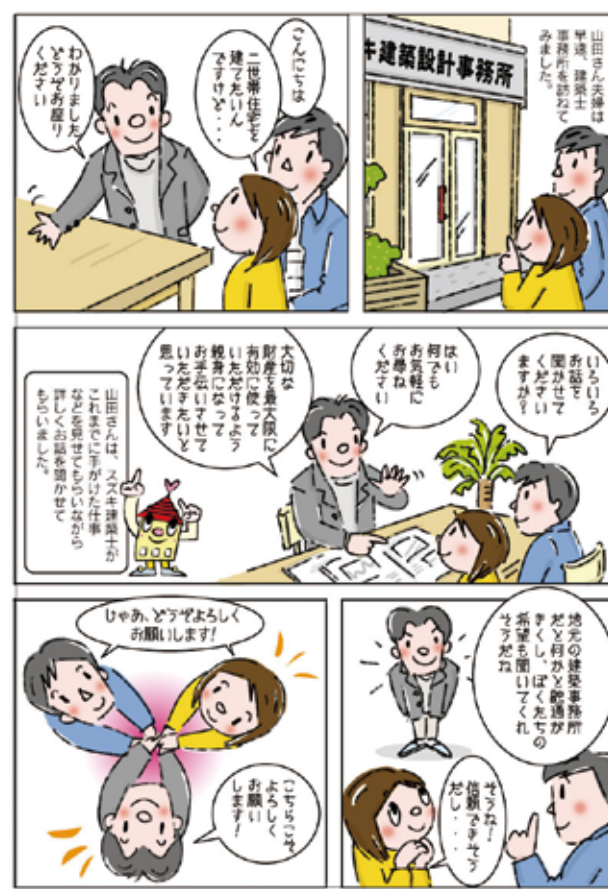
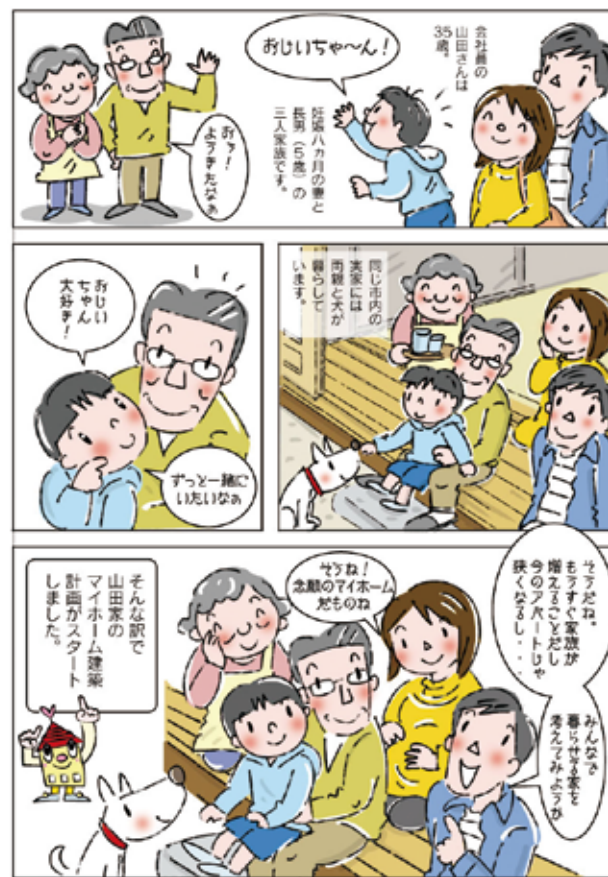
最後に成りますが40周年記念事業に携わって頂きました各界の方々をはじめ特別委員会にご協力を頂きました方々に本当に感謝申し上げます。また、この記念誌が皆様のお役に立てる事を願っています。ありがとうございました。

■ 総務・会計
坂東 賢一
黒崎 仁資
炭谷 文彦
手城 司
丸山 正弘
[賛] 富登 篤弘
[賛] 中川 泰秀

■ 式典
檜原 賢治
赤松 泰則
上柿 重信
上家 省二
[株] 島谷建設一級建築士事務所
藤川 隆幸
[賛] 近藤 力
[賛] 樋水 徹

■ 広報
時本 昌典
坂口 敏司
長岡 邦夫
[株] 辻工務店一級建築士事務所
宮本 昌司
[賛] 小濱 利郎
[賛] 新居 大和

■ 記念誌
高田 正樹
中野 真弘
板東 公治
[株] エーシーイ設計
板東 毅
[有] 佐藤建築企画設計
堀川 誠一
[賛] 野田 久之
[賛] 吉田 充樹



●発行日
2015年4月16日
●発行
一般社団法人
徳島県建築士事務所協会
〒770-0847
徳島市幸町3丁目55番地
自治会館2階
TEL:088-652-5862
●デザイン
柏木団デザイン事務所
●印刷
原田印刷出版株式会社

40th Anniversary

Tokushima Association of Architectural Firms

一般社団法人 徳島県建築士事務所協会

〒770-0847 徳島市幸町3丁目55番地 自治会館2階

TEL:088-652-5862 FAX:088-653-5201

<http://tokushima-aaf.or.jp>